幼児・小学生の 造形による
育みのABC

日文 教授用資料

令和２年（2020年）７月15日発行

編集・発行人　佐々木秀樹

発行所　日本文教出版株式会社
〒558-0041　大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL：06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33520

日本文教出版 株式会社
https://www.nichibun-g.co.jp/

大阪本社　〒558-0041　大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261　FAX:06-6606-5171

東京本社　〒165-0026　東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611　FAX:03-3389-4618

九州支社　〒810-0022　福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696　FAX:092-521-3938

東海支社　〒461-0004　名古屋市東区葵1-13-18-7F･B
TEL:052-979-7260　FAX:052-979-7261

北海道出張所　〒001-0909　札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL:011-764-1201　FAX:011-764-0690

育みのABC

日本文教出版

日文 教授用資料

幼児・小学生の 造形による
育みのABC

文･絵　阿部宏行

未来をになう子どもたちへ
日本文教出版

本資料は，一般社団法人教科書協会
「教科書発行者行動規範」に則り，
配布を許可されているものです。

日文の実践事例、教科情報
詳しくはWebへ！
日文　検索

はじめに

この本は，主に幼児教育に携わる先生方，幼児教育を学んでいる学生の方々，小学校低学年の指導をしている先生方に向けてつくっています。

子どもの絵が，子どもが絵を，もっと好きになる「育みのABC」です。子どもは自分の思いを．絵やつくるものに表そうとします。子どもは，道端に連なって歩くアリなど，驚いたことや面白いと感じたことを話したり，絵にしたりします。思いを絵にして「見て，見て！」と．身近な人に伝えようとします。その時の子どもの思いを受け止め，一緒に喜びを共有することが，支援であり，指導です。これは「教えない指導」ともいえます。もしくは「主体がどこにあるかを見極めた指導」ともいえます。「教えなければならない」という，指導者側のがんじがらめの指導には，大人の論理や欲が入り込みやすくなります。

「材料と十分に触れ合う機会をつくる」「季節や身近な自然を感じる機会をつくる」「要津の安全な扱いを知る機会をつくる」「友だちと一緒にかいたり，つくったりする機会をつくる」「表現する楽しさや喜びを共有する機会をつくる」など，「教える・教えられる」という関係ではなく，喜びを共有する「機会をつくる」ということです。そこには，子どもの自発性や自主性があるのです。その向こうに，主体性の育ちがあります。

第１部 実践編は，描画材や材料などのまとまりごとに，基本的な知識を踏まえた実践例の紹介をしています。

１．絵あそび……主な描画材を使った活動
２．材料あそび……身近な材料ごとの，全身を使った活動
３．行為あそび……身体性を大切にした活動
４．工作アイデア…身近な材料ごとの，作品をつくる活動
５．接着・接合……造形活動に必要な用具などの基礎知識

このうち，１，４は小学校図画工作科の「絵や立体，工作に表す活動」につながり，２，３は「造形遊びをする活動」につながっています。

第２部 理論編は，主に幼児教育に関することを記述しています。

本書を通じて読者の皆さんに，子どものよき理解者として，子どもが絵をかき，ものをつくる楽しさを知る機会をプレゼントします。

もくじ

はじめに …… 1
もくじ …… 2

第１部 実践編

1 かいてあそぼ　わくわく絵あそび

発達と絵の表現 …… 4
クレヨンで …… 6
絵の具で …… 8
カラーペン・チョークで …… 10
貼って …… 12
いろいろかいて …… 14
いろいろ組み合わせて …… 16
コラム　子どもの時代は人生の宝物 …… 17

2 つくってあそぼ　わくわく材料あそび

新聞紙で …… 18
空き箱で …… 20
粘土で …… 22
光で …… 24
雪や氷で …… 26
風と …… 28
水と …… 30

3 やってあそぼ　わくわく行為あそび

並べて …… 32
囲んで包んで …… 34
版で …… 36

4 工作アイデア　わくわく工作あそび

紙パックで …… 38
紙コップで …… 40
紙袋で …… 42
トレー・パックで …… 44
ペットボトルで …… 46
ポリ袋で …… 48

5 接着・接合

接着剤 …… 50
粘着テープ …… 52
ホチキス …… 54
ひも …… 56
接着剤適合表 …… 57
コラム　切る用具 …… 58

第２部 理論編

1 人はなぜ絵をかくのか …… 60
2 幼児期の絵の発達 …… 62
3 発達を踏まえた絵の指導で育む …… 64
4「あ」と「ん」の造形表現 …… 66
5 戦後の幼児教育と造形教育 …… 68
6 幼児教育の基本 …… 70
7 養護・保護と「教育」 …… 72
8 乳・幼児期から小・中・高等学校を通して育む …… 74
9 育ってほしい 10 の姿 …… 76
10 豊かな感性を育む …… 78
11 創造性を育む …… 80
12 工夫する心を育む …… 82
13「資質・能力」の三つの柱 …… 84
14 豊かな心を育む …… 86
15 非認知的能力を育む …… 88
16 保育士を育む …… 90

参考図書 …… 92
むすびに …… 94

第１部

実践編

わくわく絵あそび

発達と絵の表現（３歳まで）

２歳から３歳にかけて，子どもは運動のような線あそびを楽しみます。表出的で身体的な線は，円と直線を生み出します。その後に，円と直線による組合せによって人物表現（いわゆる頭足人）が生まれていきます。

線あそびを楽しむ

ことばもいっしょに育つ

どの子どもも線あそびをします。筋肉や神経系の発達とともに，細かな動きの線もかけるようになっていくので，最初は線あそびを楽しむ感覚を大切にしましょう。線あそびには以下のようなものがありますが，子どもはこの他にもいろいろな線を繰り返しかいて楽しんでいます。

〈線あそびの例〉
- たたきつけ
- 回転
- 振幅
- 逆走　など

指導のポイント

見守る人があたたかな声掛けをすることで，子どもは思いが伝わったことを喜び，絵をかくことが喜びになります。絵をかくことを通して共有する楽しさを経験することが大切です。保護者や指導者は「成長を楽しむ」という，ゆったりとした気持ちで触れ合いましょう。

参照 理論編 p.60-61「発達を踏まえた絵の指導で育む」

子どもの成長を楽しむ

知っとく　描画材と色

筆圧が弱く，持ち方も不安定なこの時期の子どもに適した描画材は，水性ペン，クレヨン・パスなどです。また，線の形を認識しやすいように，濃い色を１色だけ使うようにしましょう。

発達と絵の表現（３歳から）

表現とは，心の内にあるものを外へ出すことです。自分の思いを自分に伝える（自己伝達），相手に伝える（他者伝達）ことができます。伝わることで喜びが得られるため，かくことは喜びとなります。

絵に表れるもの

子どもは自分が体験したことや，知っているものを基にして絵をかきます。子どもは感じたことを絵に表すのです。

人物をかく
- 一番身近な人をかく人物画が絵のはじまり
- かきたいものを大きくかいている
- かきながら変化していく

見たことをかく
- 見ながらかく
- 見てきてかく
- 見たことをかく

など，いろいろあります。大人の見方とは違うことに留意しましょう。

したことをかく
- 共通の体験からかく
- 個人の体験からかく

同じ体験をしても，一人一人経験したことは違う。運動会などの行事を，同じ様式で同じようにかかせるのはやめましょう。

想像したことをかく
- 物語やお話をもとにかく
- 自分でお話をつくってかく

想像することの楽しさを味わえるようにしましょう。

指導者がすべきこと

- 「しつけ指導」のための表現ではなく，子どもの「やってみたい」という気持ちを大切にしましょう。
- 安心して表現できる場所を用意し，子どもがのびのびと活動できるようにしましょう。
- 意欲付け，イメージを広げる支援をしましょう（ほめる・認める）。
- 活動の様子を保護者に伝えましょう。

クレヨンで

クレヨン
・大正時代に日本に輸入された。
・ろう分が多いため，なめらかに線がかける。力を入れずにかくと色合いは薄くなる。

クレパス
・クレヨンとパステルの特性を生かし，大正14年に日本で開発された。
・油脂分が多いため，紙などの着色性もよく，力を入れなくても面がきに適している。重色や混色も簡単である。

もち方

▼にぎり持ち

▼つまみ持ち

▼えんぴつ持ち

無理なく，年齢に合わせて各自の持ち方に目を向け，えんぴつ持ちに移行しましょう。

こんなことができるよ

A 線であそぶ

▼ペロペロキャンディ

棒を先にかいてから

▼ぐるぐるかけっこ

色画用紙をちぎって池をつくり，魚をかいてから

B 面でかく

▼あめ玉，ビー玉，シャボン玉

ティッシュでこすってもOK

▼ジュースやさん

好きな形のコップをかいて色の違うジュースを面がきする

C 組み合わせてかく

◀花のたね（小石や紙粘土）を置いてから

◀（色画用紙などで発射口をつくって）ふん水（花火）

● 絵の具と組み合わせて

◀花火
クレパスの撥水性（水をはじく性質）を利用してかく

クレヨンの上に薄く溶いた絵の具をかける

ウキウキ うきでるまほうの絵

白いクレヨンやロウソクは水をはじくので，白い画用紙にかいた線に色水をぬると，あらふしぎ。白い線が浮き出てきます。

見えない線が現れる楽しくてふしぎな効果があります。わくわくする感覚を楽しみましょう。色でかいた絵をロウソクで守ることもできます。

解説

材料・用具
絵の具，画用紙，白いクレヨンまたはロウソク，刷毛　など

クレヨン ドライブ

大きめの画用紙などに1本のクレヨンやパスで自由にドライブするように長い線やぐるぐるをかきます。ゆっくり走ったり，スピードを上げたり，ブレーキ！など楽しくクレヨンが走ります。

模造紙などに共同でかいて線が交差したり重なったりしたところに，いろいろな形が生まれます。

解説

材料・用具
クレヨン，画用紙　など

おっとっとっ！

クレヨンを使って小さな「ぐるぐる」をかきましょう。四つ切の画用紙を縦に半分に切り，そこに好きな色のクレヨンでぐるぐるを積み上げていきます。「でも，おっとおっとっ……倒れないようにしてね」。

いろいろな色があると楽しいね。

表現しながらクレヨンの筆圧を高める効果があります。幼児から低学年までは特に，身体的な表現ができるようにすることが大切です。

解説

材料・用具
クレヨン，縦長の画用紙　など

知っとく

クレヨンなどの絵に表すための材料を「描画材（びょうがざい）」といいます。描画材それぞれに特徴があり，強い，弱い，濃い，淡い，明るい，暗いなどを表すことができます。一方，画用紙や板材，段ボールなど，絵がかかれる材料は，絵の具やクレヨンを支える材料であることから「支持体（しじたい）」といいます。

絵の具で

水彩絵の具
・透明・半透明・不透明のものがある。
・幼児～小学生では主に半透明・不透明のものを使用する。
・個人用絵の具は半透明絵の具と呼ばれ，水の量を多くすると透明感がでる。水の量を少なくすると不透明になる。

共用絵の具
・大きな容器に入った絵の具で，主に不透明絵の具のポスターカラーなどが多い。
・大人数で使う時に便利である。
・不透明絵の具は重ね塗りしても下の色が出てこないので，自分の思いをはっきりと表すことができる。

筆の扱い

筆に含ませる水の量を調整すると，様々な線の表現を楽しむことができるが，最初は「かすれない！たれない！」ことが大切だと伝えておきましょう。

こんなことができるよ

A 点をつなぐ

三原色（赤・青・黄）の絵の具を濃いめに溶き，点々を付けた後，水だけを付けた筆で点をつないでいく。

B 線でかく

クレヨンで雲や傘，人などをかいてから，雨降りを筆で表す。個人用絵の具の使い方を指導する時によい。

C にじませる

クレパスでシャボン玉の輪郭線をかき，その中に水を付ける。上から絵の具をたらすとにじむ。

▶下絵をかかずに直接かくときには，例えば赤と黄，黄と青など混ざり合っても心地のよい色を選ぶようにします。

布で水分をふき取り，穂先を揃えるようにしよう。

コロコロ・アート

絵の具の付いたビー玉などを，空き箱のふたなどに画用紙を敷いて転がします。思わぬ線が表れ，転がるものによって線が変わります。

偶然の線から，だんだん意図的な線を構想していくなど，一人一人の工夫が生きて働きます。

解説

材料・用具
絵の具，画用紙，ビー玉などの転がるもの，筆洗，雑巾　など

ブクブク・アート

固形石けんを細かく削ったものを容器に入れて，ぬるま湯で溶き，さらに絵の具を入れてかき混ぜます。容器にストローを入れて吹くと，あらふしぎ！ブクブク怪獣が現れます。その色付きの泡を画用紙に置くと，ふしぎな形が生まれます。

偶然の形や色の組合せなどから発想し，意図的な活動を楽しむことが大切です。石けん水を飲み込んでしまわないよう留意しましょう。

解説

材料・用具
絵の具，画用紙，固形石けん，雑巾など

ポタンポタン・アート

色水をストローの先から落とします。ポタンと落ちた色水は，画面で混ざり合い，広がります。高さを変えたり，落とす場所を考えたりしながら，意図的な色の混ざり合いを楽しみます。

絵の具を溶く水の量を多くして透明感をだしたり，食紅などを用いたりして活動することもできます。

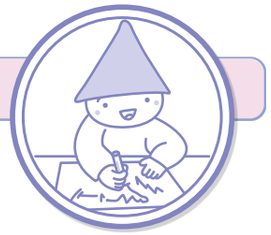
解説

材料・用具
絵の具，画用紙，模造紙，ストロー，筆洗，ビニルシート　など

知っとく

共用絵の具で使われるポスターカラーは，発色・のびがよい不透明水彩絵の具で，幼児の絵の表現に向いています。絵の具は小さなビンや空容器など，持ちやすい大きさのものに溶いて使います。筆は平筆，丸筆の他に，刷毛（はけ）も使うことができます。個人用絵の具は，発達に合わせて指導することが大切です。

カラーペン・チョークで



水性ペン
・染料系水性ペンは紙，布，木材など，水が染み込むものにかくことができる。
・耐水性はないが，手に付いてもすぐに洗い落とせる。
・ポスカなどの染料系水性ペンは不透明で，重ね塗りができ，つるつるした材料にもかくことができる。

油性ペン
・薄い紙にかくと裏写りするため，下に新聞紙などを敷くようにする。
・つるつるした材料にもかくことができ，すぐに色を重ねてもにじまない。
・耐水性があるので，ペンでかいた上から絵の具を塗ってもにじまない。
・手に付くと落ちにくい。

チョーク
・本来黒板などに使用されるが，アスファルトなどにもかくことができる。
・色も様々なものがあり，削って粉末状にして使うこともできる。

水ににじむ特徴を生かす

● 水性ペンで後からかく

まず画用紙全体に筆で水を塗って湿らせておく。その後ペンでかくと線のにじみを楽しむことができる。

● 水性ペンで先にかく

ペンで画用紙に絵をかき，水を付けた筆でなぞるようにすると，線がにじむ。

こんなことができるよ

A 点でかく

画用紙の中央に穴を開け，周りにお菓子や果物を置きます。アリさんになった気持ちで，点で足跡を付けていきます。

B 線でかく

カタツムリ（カメ）さんのお散歩です。まずカタツムリを好きな場所に置きます。そして長い道をゆっくり歩くように線をかいていきます。

C 面でかく

画用紙を二つに折って冷蔵庫にします。好きなものをかいて冷蔵庫をいっぱいにしましょう。同じものが並んでもかまいません。

D 切ったり並べたり

「クッキー（ケーキ）やさん」のクッキーをつくります。模様をかいたり，切り抜いたりして，画用紙に並べます。

おでかけ マイ・シート

シートに油性ペンでお気に入りのものをかいて，外に出かけるときに持って行きます。シートの上で，本を読んだり，友だちと一緒に座ってお話したりすると楽しいですね。

芝生の上などに敷いた時に，自分の目印にもなります。絵にしたり，模様を並べたり，お気に入りのシートにしましょう。耐水性のシートや油性カラーペンなどを使い，何度も使えるようにするといいでしょう。

解説

材料・用具
油性ペン，ベックス紙（不織布）またはカラービニルシート，雑巾　など

ぷかぷか うかんだ

フラフープに透明ビニルシートを張り，油性ペンなどの耐水性のある描画材で絵をかきます。友だちの作品も浮かべてプールが花畑になったり，美術館になったり，発想はどんどん広がります。

耐水性の高いカラービニルシートやポリテープなどを，粘着ビニルテープで飾ると一層華やかな感じになります。浮かべて鑑賞するだけでなく，校内に展示すると風に揺れる装飾になります。

解説

材料・用具
油性ペン，プチプチマット，ビニル袋，雑巾　など

チョークでアート

チョークで地面に長い線や大きなものをかきながら，全身でかく楽しさを味わいましょう。楽しい世界が広がります。

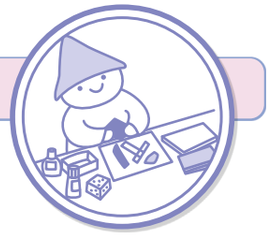
小学生で実施する時は，教室の黒板に並ぶ小さくなった色とりどりのチョークを使います。活動前から休み時間に，学校中の教室を回って小さなチョークをたくさん集めると，活動にも期待が高まります。

解説

材料・用具
チョーク，水　など

知っとく

カラーペン（マーカー）は，細い線はもちろん，点や面もかけるので使いやすい画材です。ただし筆先が繊維質のチップですから，強く押し付けないようにしましょう。また，特に油性ペンはキャップを閉め忘れるとインクが揮発して使えなくなることがあるため，活動が終わった後に閉め忘れがないかしっかりチェックしましょう。



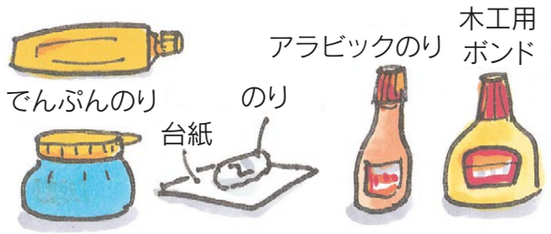
貼って

お花紙
- 色付きのティッシュペーパーのような紙。
- 市販されているものは20色あり，1袋500枚程度入っている。
- 薄くてやわらかく，水には弱い。
- 紙なので，縦目と横目でやぶれ方が違う。

貼る時は

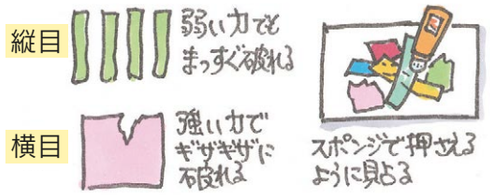
アラビックのりなどの液状のりで貼る。でんぷんのりを水で薄めて使ってもよい。木工用ボンドを水で10倍ほど薄めたものでもよい。

参照 p.50-51「接着剤」



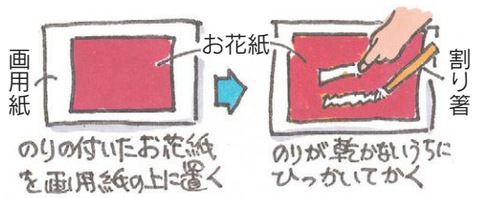
こんなことができるよ

A アラビックのりで貼る



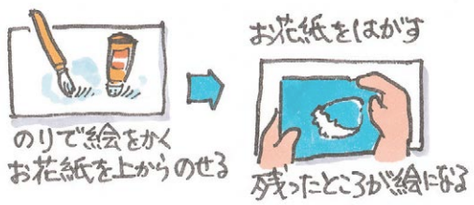
お花紙を裂き，アラビックのりなどのスポンジが付いたのりで押さえるように貼る。

B 貼ってからひっかく



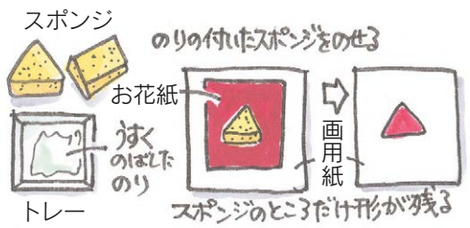
アラビックのりでお花紙を貼り，乾かないうちに割り箸や指でひっかいてかく。

C のりで絵をかき，お花紙をのせてちぎる



絵をかくように紙にのりを付け，お花紙をのせる。手で周りを引っ張るようにしてちぎる。

D スポンジにのりをつけてくりぬく



スポンジを好きな形に切り，のりを付けてお花紙をのせる。周りを引っ張ると，スポンジのところだけが残る。

貼って貼って

トレーシング・ペーパー（半透明の紙）に絵の具を塗って乾燥させ，やぶったり切り取ったりしながら画用紙に貼って，お気に入りの絵をつくります。半透明なので，下の色が浮かんで面白い効果が生まれます。

画用紙に貼る時には，木工用ボンドを水で溶いたものを使います。カラーセロハンや色紙などを合わせて使ってもよいでしょう。

解説

材料・用具
色付きの紙，画用紙，薄く溶いた木工用ボンド，クレヨンやカラーペン　など

すきすきペタペタ

色紙や包装紙などのいろいろな紙をちぎったものや，はさみで切った小さな紙をペタペタとのりで貼っていきます。貼っていくうちに，線になったり，形になったりします。

塗り絵のように，あらかじめある線の中を貼るのではありません。紙をちぎる・貼るという行為を楽しみながら行う造形活動です。大きな画用紙に共同で貼っていくこともできます。

解説

材料・用具
色紙，包装紙，画用紙，のり　など

ホワイトさん，こんにちは

薄い画用紙を切り抜いて「ホワイトさん」をつくります。ホワイトさんにクレヨンで色を付け，黒い画用紙に貼り付けます。そこから物語が始まります。「こっちに○○があるといいな」と，次々と物語の登場人物が増えていきます。

黒い画用紙に収まる登場人物の大きさなど，おおよその構想から始めて，のりで貼ります。その後，子ども同士で発想が広がるように，座席の配置や材料の置く場所を工夫します。

解説

材料・用具
薄い画用紙，黒画用紙，クレヨン，のり　など

知っとく

紙には「目」があります。紙は工場で大きなロール状に巻き取られながら製造されます。紙の流れる方向が「紙目」になります。裁断されたA判全紙の長辺に対して水平に紙目があるものを「縦目（T紙）」で，垂直なものを「横目（Y紙）」といいます。紙目に沿うときれいにやぶることができます。

いろいろかいて

絵は，四角い・白い画用紙にかくものと思っていませんか？
実は紙以外にもかけるものは身の回りにたくさんあります。かきたい気持ちに合わせて，かくもの(クレヨンなどの描画材)とかかれるもの(画用紙などの支持体)を選んでみましょう。そうすることで，活動の幅が広がります。また，ここに示してあるもの以外でどのような活動ができそうか，考えてみましょう。

こんなものにかけるよ

A 空箱

箱のまま使ったり，切り開いた形を生かしたりしてかくこともできる。

B ダンボール

箱のまま使ったり，切って使ったりできる。
波目を生かしてもよい。

C 形を変えた画用紙

絵をかいた後に，丸めたり折ったりして立たせると，違った感じに見える。ちぎってかくのもよい。

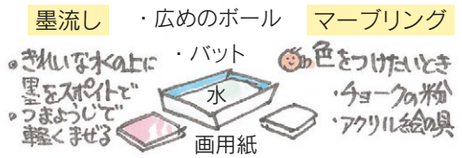
D ビニルシート・ペットボトルなど

ビニルシートなどのつるつるしたものにかく時は，絵の具に中性洗剤を少し混ぜると定着がよくなる。
発泡スチロールのトレーなどにかいてもよい。

E 石・枝

自然材は手に入りやすく，形も様々なのでイメージが広がりやすい。

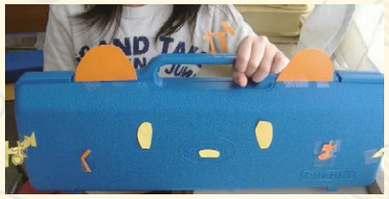
F 水



マーブリング用の絵の具を使えば，水面に模様を描くことができる。

あれ，顔!?

身の回りのものに，画用紙にかいた目などを貼って，顔をつくります。おや？ 身の回りにあるものが顔に見えてきます。



身の回りにある「形」に着目すると，いろいろなものに見えてきます。ここでは，目や口を取り付けて，身近にある顔を見付けます。自分なりの創作を加えていくことで一層楽しむことができます。

解説

材料・用具
色画用紙，セロテープ，カラーペン　など

木の実の絵の具で

身の回りにある自然物も，絵の具になります。土や石，チョークなどを細かく砕いて，のりを付けると絵の具ができます。ここでは，園庭や校庭の木の実や葉などをつぶして，汁を絵の具にしています。

秋になってクワの実が熟してくると，いろいろな遊びが展開できます。すり鉢でつぶした汁をカップなどに取り分け，絵の具をつくって，刷毛や太い筆を使って全身でかきます。

解説

材料・用具
色紙，包装紙，画用紙，のり　など

石の美術館

道端の石などに顔をかき，身近な材料を使って登場人物をつくります。空き箱の中にお話の舞台をつくり，石の登場人物を置きます。

いろいろな形の石を物語の登場人物に見立てたり，絵をかいて自分のお気に入りにしたり，発想がどんどん広がっていきます。ここでは顔料ペン(ポスカ)の発色のよさを利用しています。

解説

材料・用具
石，顔料ペン(ポスカ)，水性ニス，空き箱各種　など

知っとく

いろいろなものにかくことのできるサインペンのインクは，溶剤(溶かすもの)と着色剤(溶けている色素)に大別できます。油性は「揮発性有機溶剤(石油系の油で溶いているもの)」です。水性は水に色素が溶けています。油性は水性に比べて乾燥が早く，プラスチックや金属にもかけます。水性は，にじみや裏うつりが少なく，臭いなども少ない特性があります。

いろいろ組み合わせて

これまでに紹介した様々な描画材と支持体を組み合わせることで，さらに活動の幅が広がります。どのような活動ができそうか，考えてみましょう。

まほうのたね

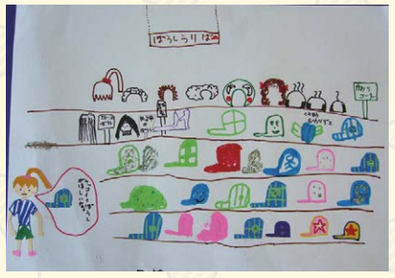
絵の具とクレヨンを組み合わせて絵に表します。魔法の国の王様からもらった「種」をセロテープで画用紙の下に貼り，そこから芽が出て，枝や葉がどんどん成長して，そこに大好きな「○○」が実ります。

材料・用具
絵の具，クレヨン，画用紙　など

「おもちゃの木」，「怪獣の木」，「レストランの木」など，自由に想像を広げてクレヨンでかいていきます。

解説

どこ？　これっ？



材料・用具
マーカーペン，絵の具，画用紙　など

まず，カラーペンで「探してほしいもの」を一つかきます。あとはその周りに「似てるけど違うもの」をかいて楽しくしましょう。

みんなで集まって楽しむ「もの探しの絵」です。「すぐに見付からないことが大事です。」と提案するだけで，子どもたちはハッスルします。絵本のようにするのも楽しいですね。

解説

大地のキャンバスに

ナスカの地上絵のように，校庭に，棒などを使って長い線や大きな形をかきます。

材料・用具
棒　など

細かな形や線にこだわらず，運動のように全身を使ってかきます。かき終わったら，校舎の高いところから鑑賞して楽しみます。

解説

子どもの時代は人生の宝物

全ての大人には，「子どもの時代」があります。それぞれの「子どもの時代」は，どれ一つとして同じものはありません。その記憶をたどっていくと，幼かったころの思い出や，友だちと遊んだ記憶も蘇ります。今の自分をつくったのは様々な出来事や関わった人たちとの間に生まれたものです。教育は，「人と人」との営みから生まれるものです。ですから，今の自分は，幼児期から今に至るまでの人との出会いであり，信頼の構築の姿でもあるといえます。

幼児期では特に「遊び」が大切です。遊びを通して学びます。遊びながら学んでいるのです。「遊びたいおもちゃがある。でも，他の人が使っている。」という状況下で，考え，行動に移します。争いになることもあります。両者の言い分は通らないから，どうしたら互いに気持ちよく生活できるか「考える」ことになります。「使い終わったら，次貸してね」「もう使い終わったからいいよ」「ありがとう」という，一連の解決の方策も，そして，感謝の意を伝えることも学ぶのです。

成長は，様々な「こと」を経験し，自分の体に身に付けて「能力」となり，次のステージに進むのです。ですから幼児は「遊び」を通して「能力」を身に付けているのです。

●子どもの絵は自分に宛てた手紙*1)

子ども自身が，生まれてからはじめに身に付けていくのは，造形表現と言語（音声）表現です。絵をかきながら概念としての「ことば」も獲得していくのです。これらは，社会で生きていくときに，必要とされる「本性」に基づいて行われているのです。ですから，幼児期にかいた絵は，大人から見ると意味のない落書きに見えるかもしれません。でも，子どもは今の自分に宛てて手紙をかいているのです。それは将来への設計図でもあり，今の自分自身がそこに投影されているのです。

●学ぶ機会をつくる指導

造形表現は，思いやりのある人，やさしさにあふれた人に行きつく教育を目指しています。

その教育は，まず，「答えは一つじゃない」という前提で始めます。子ども一人一人は個性をもった，違う存在です。発達の仕方も速度も違います。指導者は「教える」という考え方ではなく，「学びの機会」をつくり支援するのです。林健造は，大人が子どもに教えることを「かえるがオタマジャクシに教える」*2)に例えています。

子どもは，子ども時代を十分に生きている「オタマジャクシ」です。陸の上のカエル（大人）が，陸上での過ごし方を説教しても，池で自由に泳ぐオタマジャクシには届きません。私たち大人は「子ども応援団」として，子どもの成長や発達を踏まえて，その上で支援や指導することが重要なのです。

子どもの時代の遊んだ「こと」は，宝の出来事（「宝事」）が，自分の「宝もの」になって成長しているのです。子どもの時代を支援できるのは，親や家族であり，保育者などの指導者，地域の人たち，そしてこれらを支える行政なのです。

＊1）津守真「子どもの世界をどうみるか　行為とその意味」NHK ブックス 526　1987
＊2）林健造「幼児の絵と心　子どもからあなたへのメッセージ」教育出版　1976

わくわく材料あそび

新聞紙で

新聞紙
- 大きさは見開きで546×812mm。
- 薄いため，ちぎる，裂く，丸めるなどの操作がしやすい。
- 耐水性はなく，濡れるとすぐにやぶれる。

こんなことができるよ

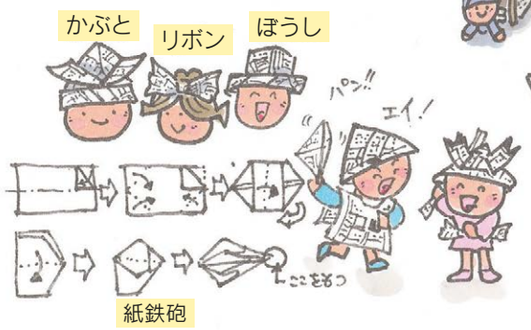
A とにかくふれる

B 丸める

C やぶいて

D つつむ

E 折る



F 水を混ぜる

すきすき 新聞紙

まず，教室に新聞紙を敷きつめます。新聞紙の大きさを十分に味わったら，新聞紙をねじったり丸めたりして，体全体を使って触れるようにしましょう。

新聞紙の量と，広い場所が活動の決め手です。授業のはじめは「この新聞紙で何できる?」とせずに，「敷き詰めたら，どうなるかな」と提案して体全身を使う行為を導きだします。

解説

材料・用具
新聞紙

新聞迷路

材料・用具
新聞紙，セロテープ，机，椅子　など

机を新聞紙で囲みます。そして机を組合せて部屋にしたり，つなげて道のようにしたりできます。

スタートと，ゴールを決めると「迷路」になります。

途中に分かれ道や仕掛けをつくると，発想がさらに広がります。

安全面の他に，机の構造や子どもの体格にも配慮が必要です。あらかじめ新聞紙を集め，広い会場が使用できるようにしましょう。

解説

透明人間があらわれた

「透明になる魔法をかけたけど，少し失敗しました。足跡だけ残るんです」という提案のもとに，自分の足型に合わせて新聞紙を切り取ります。切り取った形を並べると，透明人間の歩いた跡が見えます。

足型の新聞紙を床に，そのまま置くことができます。壁には，セロテープを輪にして，貼ることができます。そうすると教室から廊下など床や壁を透明人間が自由に歩いたようになります。

解説

材料・用具
新聞紙，はさみ，セロテープ　など

知っとく

あらかじめイメージして計画・準備してつくりあげる楽しさがあります。でも，材料に触れて操作している過程で「あっ！ ○○に見える！」とイメージが浮かんでくる楽しさもあります。後者の「材料あそび」は，小学校の図画工作科の「造形遊び」と共通するところがあります。全身で材料に触れて活動をつくりだす喜びを経験することが大切です。

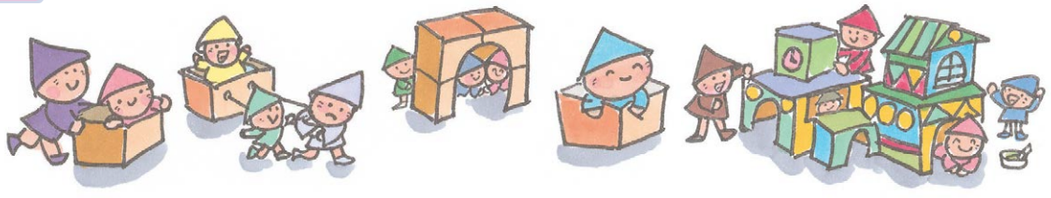
空き箱で

段ボール箱
- ２枚の紙の間に，波型の紙を挟んだ厚紙。用途に合わせ波型の紙を2枚挟んだダブルのものもある。
- 波の目と同じ方向からの力には強い。
- 箱の大きさも大小様々だが，幼児であればすっぽり入ることができるような大きさのものもある。
- 箱だけでなく，板状のものもある。

紙　箱
- 身近なものを入れる紙箱は形状も大きさも多様である。
- クラフト紙や中厚紙などいろいろな材質がある。
- 比較的集めやすく，幼児の活動にも使いやすい。

こんなことができるよ

A 段ボール箱で



中に入って　　おうちをつくって

B 空き箱で

どんどんつなげて・つんで　　組み合わせて

C 空き箱を利用して

集めたものを入れておく宝箱　　箱を開いて　　ボックスアート

ゆめカメラで写すと

　空き箱でつくったふしぎなカメラです。例えば園庭や校庭の花を写すと動物のような形になって動きだします。箱の中には，カード大の画用紙を入れ，カラーペンも持って写しに行きましょう。

どんなふしぎなことが起こるのか考えます。「お菓子のなるカメラ」「ウサギになるカメラ」など，発想を広げます。空き箱にカメラのレンズやシャッター，首掛け用のリボンを取り付けたらOKです。

解説

材料・用具
空き箱，飾りに使う身辺材，画用紙（写真の大きさに切っておく），はさみ，のり　など

すてきなお店やさん

　どんなお店にするかは自分たちで決めます。いろいろな色の色紙でつくったり，空き箱を工夫したりしてつくります。自分のお気に入りのものを入れる棚をつくったり，看板なども色紙や身辺材で飾ったりします。

身辺材が，いつも使える環境を整えておきましょう。材料置き場や用具箱など，子どもとの約束の上で，安全で安心して使えることが大切です。

解説

材料・用具
空き箱，飾りに使う身辺材，色紙，セロテープ，はさみ，のり　など

わたしのカバンすてきでしょ

　「何を入れようか」「どんな飾りを付けようか」など，いろいろ発想を広げながらつくります。空き箱に持ち手を付けて，身辺材の飾りを付けて，自分だけのお気に入りのカバンをつくります。変身セットを入れて，なりたい自分に変身できるカバンも，面白いですね。

肩掛けカバン，手提げカバン，どんなカバンにするかイメージを広げられるようにしましょう。自分の身体に合わせながら楽しくつくります。

解説

材料・用具
空き箱，飾りになる身辺材，リボン，セロテープ　など

知っとく

小学校では，同じように見える造形活動の「工作」と「ものづくり」ですが，図画工作は「つくることそのもの」が目的です。特別活動や生活科の「〇〇まつり」の品物づくりは「商品」や，お客さんを呼び込むための「手段」の造形活動です。図画工作では，個々の発想や工夫が十分に生かされることを大切にしています。

粘土で

土粘土・繰り返し使用できる彫塑用粘土と，成形後に乾燥・焼成する陶芸用粘土がある。

紙粘土・原料の違いにより多様な種類がある。
・焼成せず自然乾燥で固まる。

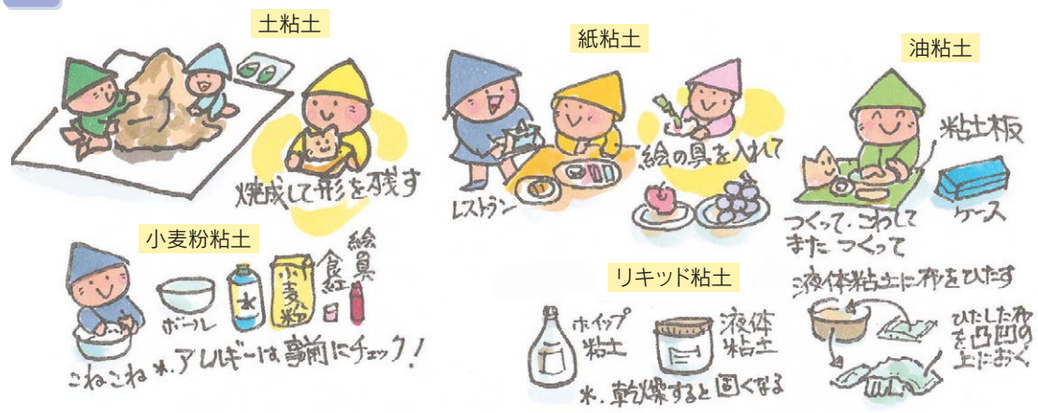
油粘土・成形後も固まらないので繰り返し使える。粘土板ごと展示してもよい。

液体粘土・紙粘土を水で溶き薄くしたもの。布などに染み込ませて乾燥させると，布が固まる。
・粘度の高いホイップ状の粘土もある。

こんなことができるよ

A 砂・土

B 粘土



砂場・土場はワンダーランド

　砂場は，子どもの創造する意欲をかきたてます。積んだり掘ったり，水を流したり。壊れたらまたつくり直せるので，繰り返し造形活動ができます。

裸足になることもあるので，危険物の除去など，安全に十分留意しましょう。活動前に，あらかじめ砂や土を掘り返すなど，子どもが使いやすい環境を整えておくことが大切です。

解説

材料・用具

砂場，土場，スコップ，空き容器，水，雑巾　など

固まったその後に……

　液体粘土を染み込ませたタオルをトレーの上に置き，乾燥させるとふしぎな形に固まります。固まった形を顔に見立てたら……。

液体粘土を染み込ませた布はトレーや空き容器などの凸凹の土台の上で，固まると強度が生まれます。ここでは身辺材を貼り付けたりして，面白い顔をつくります。表情豊かな顔を楽しみましょう。

解説

材料・用具

液体粘土，不用なタオル，トレー，絵の具，油性ペン　など

こねこね小麦粉粘土

　小麦粉に水を加えてこねこねすると，粘土が出来上がります。食紅や絵の具で色を付け，混ぜると色が変わります。

粘土をつくるところ，色を付けるところは，発達に応じて，子どもか，先生が行うかを決めて準備します。粉から粘土にするには30分ほどかかります。事前に小麦粉アレルギーなどを確認してから行いましょう。

解説

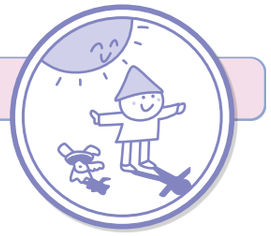
材料・用具

小麦粉，水，食用油（粘土につやを出すために少々），ボウル，食紅　など

知っとく

室内で使う粘土は，「紙粘土」（パルプを主原料に水やのりを混ぜた粘土）と石粉粘土（石を均等な粉状に砕いて接着剤などの薬品を混ぜた粘土）が使いやすいでしょう。どちらも乾くと固形化します。水彩絵の具などでも着色でき，着色後にニスを塗って光沢を与え，長期的に保存することもできます。

光で



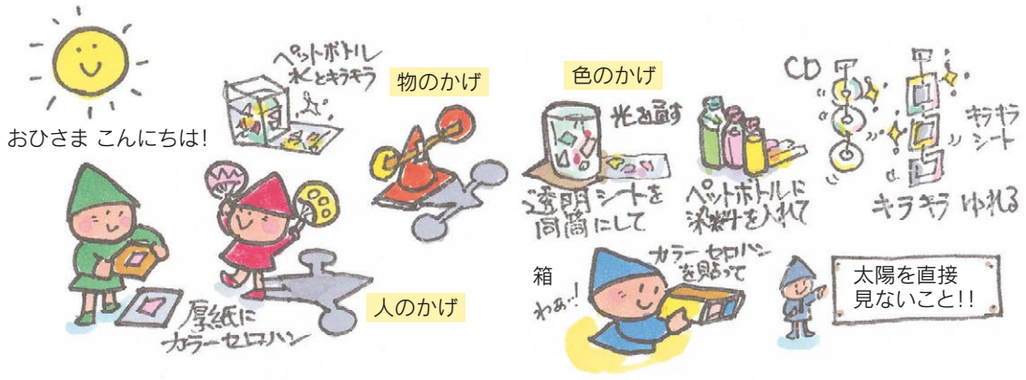
光をさえぎる材料・自分の体や，身の回りのいろいろな材料が使える。影絵などのように，光をさえぎってできる影を組み合わせて活動する。
・日光を活用する場合は時間や季節，天気によってできる影の形や色が違うので，当日の様子などを見て活動を決める。

光を通す材料・プラカップ，ペットボトル，色セロハンなど透明な材料に光を通すと，影に色が付く。これらを組み合わせて活動する。

光を反射する材料・CDやアルミホイルなど光を反射する材料を使うことができる。

こんなことができるよ

A 日光を使って



B 人工の光で

おひさま 出ておいで

色セロハンや油性ペンでかいた透明シートなどを持って，おひさまを待ちます。「おひさま出ておいで！」。
地面や壁に「わあ！ 色が付いたよ」。

活動前に色セロハンなどを窓にかざすなどして，色の付いた世界が広がることを体験します。その上で，色セロハンでお気に入りの形をつくって，透明シートにセロテープで貼ります。おひさまを待つ時間も楽しい。

解説

材料・用具
透明ビニルシート，色セロハン，油性ペン，セロテープ　など

材料・用具
チョーク，身辺材　など

かげかげアート

影も楽しい造形活動になります。自分の姿や身の回りにあるものを組み合わせたりすると，もっと面白い影の形が現れます。おひさまに照らされてできた影をチョークでかきとります。

身近にある傘や掃除用具，体育の器具なども組み合わせると面白い影の形になります。チョークでかいていくうちに，影の形が変わります。おひさまが動いていることも発見します。

解説

透かしてみたら

コピー用紙などの薄い紙に，色セロハンやお花紙などを挟み，おひさまにかざすと，きれいな色の影があらわれます。色セロハンを切って，好きな形にするのも楽しいですね。

お花紙を挟んだだけの紙は何の変哲もありませんが，窓などの光のあるところで透かすと，淡い色の光が一面に広がります。お気に入りの形や色を探しながら何度も試しの活動が行われます。

解説

材料・用具
薄い紙，お花紙，色セロハン，はさみ，のり　など

知っとく
日の光は，私たちに様々な恩恵を与えてくれます。光と影はいつも一緒です。ステンドグラスのように外からの光が形や色を美しく映しだすものもあります。色セロハンは身近にある材料です。底をくり抜いた箱に取り付けたり，メガネにしたりして楽しむことができます。でも，活動の中では太陽光を直接見るようなことのないよう注意しましょう。

雪や氷で

雪・水蒸気が大気中の微粒子に付いて凍って固体となり，地上に降りてきたもの。
・粉雪，ボタン雪など様々な質感がある。

氷・水が氷点下の温度で固体に変化したもの。

こんなことができるよ

※屋外での活動に適した防寒具や替えの手袋なども用意しましょう

A 雪

B 氷（寒い夜に水から氷になる）

雪はともだち

冬の外での造形活動です。湿った雪は固まりやすいので雪だるまには最適です。自分の雪だるまや雪山をつくったり，絵の具を溶いた色水で模様を付けたりして遊びます。

天候予報などの情報をもとに，お気に入りの雪だるまをつくります。手袋を付けさせたり，身辺材で飾ったりして楽しみます。色水などはあらかじめバケツやペットボトルなどにつくっておきましょう。

解説

材料・用具
雪，色水，バケツ，スコップ　など

アイスキャンドルをつくろう

材料・用具
水，バケツ，ロウソク，身辺材　など

あらかじめ天気予報で一晩中－10℃以下になる日を調べ，前日にバケツに水を張って耐水性のある飾りなどを入れ，屋外に置いておくと，凍ります。凍った氷にロウソクを灯すと，キラキラ光ります。

冬の天の恵みの氷の美しさを味わうことができます。極寒の夜にバケツの水が凍り，ロウソクを灯すと幻想的な世界が広がります。冬のお話の絵に発展させたり，想像の世界に誘う題材をつくることもできます。

解説

いろいろカチコチ

厳寒の夜に凍ることを知り，「どんなものを凍らせたら面白いか」を考えて，牛乳パックに水を入れたり，水で濡れたタオルやTシャツを準備したりして，一晩置いておきます。次の日の朝に見てみると歓声があがります。

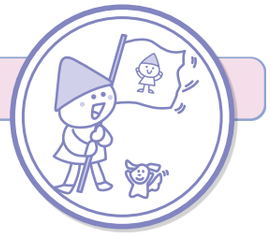
天候に左右されることが多いので，天気予報を事前に調べます。寒風によって冷え込みの激しいところなどを予想しながら，次の日の完成を待ちます。北国の特性を生かした題材です。

解説

材料・用具
水，タオル，牛乳パック　など

知っとく
雪にもいろいろな特性があります。雪の結晶は大気中で微粒子に水蒸気が付着して固体になるときにできるものです。地上近くが0℃以上の場合は湿った雪になり，水の表面張力で互いにくっ付いて雪玉などがつくりやすくなります。アイスキャンドルは，一晩中マイナス10℃以下の時間が続く深夜にできる厳寒の作品です。

風と



風・風とは空気の流れのこと。
・そよ風，春風，春一番，潮風など私たちの暮らしに密着している。

風を使ったおもちゃ…風車，こいのぼり，たこ，紙飛行機など風を利用したものも多い。

こんなことができるよ

A 風を待つ

B 風を起こす

C 風を生かす

ひらひら キラキラ

色セロハンやカラーポリ(ビニル)シート，ポリ(スズラン)テープなどの軽い材料でつくった飾りは，風に吹かれてゆらゆら，ひらひらして面白く，興味を引きます。おひさまに照らされるとキラキラします。

風になびいたり，日の光に照らされてキラキラ光ったりする軽い材料を準備して，風の強さや向きなども考え，試しながら，自分のお気に入りの「吹き流し」をつくります。

解説

材料・用具
色セロハン，カラーポリシート，はさみ，のり，セロハンテープ　など

走るひらひらマン

カラーポリの袋を服に見立て，背中にポリテープや紙をつないだテープなどを付けて，風を感じて走りだします。背中のテープがひらひらなびいて面白い動きをします。

材料・用具
カラーポリ袋，ポリテープ，セロハンテープ，ビニルテープ，はさみ　など

自分の身体に合った服をつくります。背中にポリテープやカラーポリシートをつないだテープをセロテープや粘着ビニルテープでしっかりと固定します。

解説

風を感じて

カラーポリ袋をつないで，大きなシートをつくり，屋外で広げて風を感じます。風になびいたり，棒に付けたシートがはためいたりする様子を楽しみます。

広い場所で，カラーポリ袋をシート状にしたものを幅広の透明粘着テープで固定します。使い終わったシートは，棒やロープに取り付け，幟や旗状にして飾ります。

解説

材料・用具
カラーポリ袋，油性カラーペン，はさみ，幅広の透明粘着テープ，棒，ロープ　など

知っとく

原料の石油からつくられる化成品(プラスチック製品)は，造形活動の身近な材料になります。透明ポリ袋は透過性や耐水性を利用することができます。シート状になったものは，囲んだり，身に付ける服になったりもします。カラーポリ袋などは，発表会の衣装などにも活用されています。接合にはセロテープを使ったり，ひもで結んだりします。

水と

水
- 水に濡れると濡れた場所の色が変化するため，絵をかくように表現できる。
- 絵の具やインクなどを溶かして容易に色水をつくることができ，色遊びをすることもできる。
- 水の動きなどの偶然性も生かすことで，多様な遊びが生まれる。

こんなことができるよ

A とにかく水

B 土や砂と

C 色を付けて

D 水に浮かべて

カラフル色水

絵の具を溶いて色水をつくることができます。ここでは，色水に光が通る面白さを味わうため，透明感のある食紅を使います。3原色(赤，黄，青)の色水を準備して活動します。色水を混ぜて，色が変わるプロセスを十分味わうことです。

発達に応じて，色水は事前に準備しておき，プリンカップなどの空容器にいろいろな色をつくります。ペットボトルは，連続した活動や持ち運びに使います。

解説

材料・用具
水，食紅，ペットボトル，雑巾など

コロコロ 色のカーニバル

ビー玉に水を十分に含んだ絵の具を付けて，模造紙の上で転がします。あらかじめランダムに置いたペットボトルキャップにはじかれたビー玉は，コースを変えていろいろな曲線を描きます。

材料・用具
模造紙(全紙)，共同絵の具，ビー玉，ペットボトルキャップ　など

水を十分含んだ絵の具が飛沫(しぶき)をあげて色の線をつくります。転がす遊びから筆でかく線との違いも発見します。乾いたらクレヨンで加筆したり，雨などに見立てたりして絵にすることもできます。

解説

かさかさ　さかさか

水と戯れる楽しさは，子どもの方がよく知っています。発想の広がりや発想の転換も考慮し，傘を利用します。雨天時ではなく，プールに逆さまに浮かべるという提案から，お気に入りの「さかさ」を飾ります。

発想を変えることの楽しさとともに，浮かんだ時のことを想像して楽しい造形活動を楽しみます。

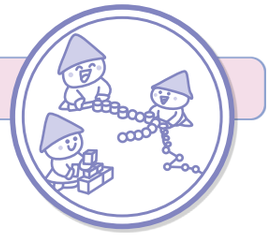
解説

材料・用具
不用になった傘，油性カラーペン，ビニルテープ，はさみ，耐水性の身辺材など

知っとく

水は，子どもにとって魅力的な存在です。どろんこ遊びも，プール遊びも大好きです。暑い日に水で絵をかく，ペットボトルに穴を開けて，じょうろのようにして遊ぶなど，少しの工夫で面白いことができます。また，水のふしぎな性質の「大気圧」「毛細管現象」「表面張力」などを利用した科学的な遊びもできます。

わくわく行為あそび



並べて

行為あそび … 「遊び」のもつ教育的な意義と能動的で創造的な性格に着目した創造的な造形活動といえる。

並べる，つなげる，積む …材料の形や色を変えずにできる，原初的な造形行為。

- 並べる→積むは平面から立体への変化である。材料の形や材質によって積むことに不向きなものもある。
- 様々な材料を並べたり積んだりする中で，「石にもいろいろな形や色があること」などに気付くことができる。

［身体性］ 造形的な行為

- 並べる　・切る
- つなぐ　・貼る
- 積む　・打つ
- 結ぶ　・照らす

造形的な活動

試す・表す
工夫する
共同で学ぶ

材　料　（身辺材）

［自然材］		［人工の材料］
・土	・粘土	・新聞紙
・砂	・小石	・段ボール
・小枝	・木の葉	・ビニル袋
・雪	・木の実	・包装紙
・水		・空き箱

創造的な造形活動

こんなことができるよ

A 並べて　**B** つないで　**C** 積んで

ならべて　どんどん

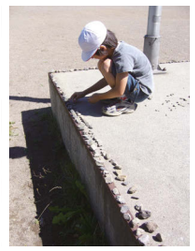
身近にあるものを並べます。並べているうちにいろいろな工夫が生まれます。小石，ペットボトルのキャップ，木片や草木なども材料になります。

何を材料とするのか，どこで活動するのか，友だちとどう関わるのかなどによって活動は多様に広がります。細長い廊下であれば線的に並べることが予想されますし，運動場のような場所であれば，周りにあるものを活用することも考えられます。

解説

材料・用具

ペットボトルキャップ，体育館



材料・用具

小石，運動場

材料・用具

小石，お花紙，廊下，
フリースペース

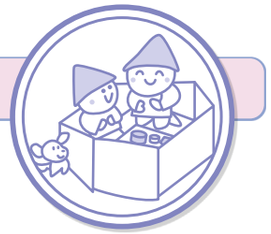
材料・用具

身辺材，廊下

知っとく

「行為あそび」は，材料を基にした造形的な創造活動です。最初に「何かをつくる」という具体的なイメージをもつのではなく，並べたり，折ったり，切ったりしながら，イメージを広げ，膨らませる活動です。作品として残らないので，活動の様子を撮影しておきましょう。

囲んで包んで



囲む
・囲むことで，場所に内と外が生まれる。
・空間の内側で「ごっこ遊び」が始まり，内側をつくり込んだり，外側を装飾したりすることができる。

包む
・遊具や机など，包むことで内側に空間が生まれることがある。この場合は，「囲む」と同じような活動が生まれる。
・ものを組み合わせて包むことで，新たな形が見えてくることもある。

こんなことができるよ

A 囲む

B 包む

わくわくマイ・ハウス

新聞紙やカラーポリ袋で机などを囲んで自分たちの家をつくります。ここは，子どもだけの世界です。ここで何をしようか，わくわくします。

大人の目から離れた子どもの世界をつくる方法としてお勧めです。新聞紙やカラービニル袋で椅子や机を包み，屋根の代わりに傘を取り付けると，秘密基地が生まれます。

解説

材料・用具
カラーポリ袋，不用な傘，ビニルテープ，セロテープ，油性ペン　など

ここ大好き!

カラーポリ袋を用いて，身の回りにある「すみっこ」などに，自分の家をつくります。模様をかいたり，組み合わせたりしながら，お気に入りのすみかをつくります。

一人用の「すみか」です。身の回りにある「すみっこ」が，自分の世界に早変わりします。安全指導を十分に留意した上で，自分の場所を発見し，お気に入りで飾って自分だけの「すみっこ」をつくります。

解説

材料・用具
カラーポリ袋，ビニルテープ，セロテープ，油性ペン　など

つつんじゃえ

包む，囲むなどの行為は，造形活動の原点でもあります。内と外の境界をつくることにもなりますし，表と裏もつくりだします。「もの」があることを意識し，そこに目に見える空間が生まれます。風景が変わること，変えることの楽しさを体験します。

安全指導を十分に行い，共同で包むことを伝えます。今までの遊具が変わり，風景さえ変わることの面白さを味わうことができます。

解説

材料・用具
養生シート，ビニルテープ，セロテープ，油性ペン　など

知っとく
「包む」も，「くるむ」も，慈しむ心や丁寧に扱うという精神的なものが含まれています。「包」の漢字は母体にある胎児を表し，生まれ出(いず)ると「己」に変わります。その行為に意味を感じます。同じような「囲う」も中のものを守る意味があります。ものを包装することで，新たな意味が生まれます。

版で

押して写す・スタンプのように絵の具を付け，押し付けて写す。
・身近なものの形を生かしたり，手や指などの体を使うほか，油粘土で型押ししたものを使うこともできる。

こすって写す・凹凸の上に紙を置き，上からクレヨン，パステル，色鉛筆などでこすって形を写す。

刷って写す・版をつくり絵の具を付け，その上に紙を置いて刷って写す。

転がして写す・ローラーに絵の具を付け，紙の上を転がして写す。

こんなことができるよ

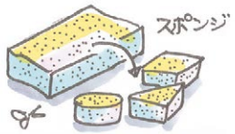
A おす（ペタペタ）

▶スチロール板で

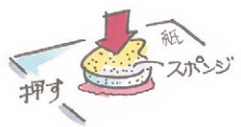
切ったスチロール版に釘や鉛筆の先で溝を付ける

絵の具のスタンプ台に付けて押す

▶スポンジで



スポンジを自由な形に切る



絵の具を付けて押す

B する（スリスリ）

▶紙を置いて刷る

絵の具（石けん水含）をつけた版を刷る

▶凹凸を探してこすりだす

紙を当て，クレヨンなどでこする

C ころがす（コロコロ）

▶絵の具を付けたビー玉をコロコロ転がす

▶ローラーにいろいろなものを巻いて転がす

すりすり うきうき

身の回りにある凹凸を探して，クレヨンでなどでこすると，形が写って模様になります。集めた模様を切ったり貼ったりして絵に表します。

薄手の画用紙などを手にして，校内や園内の凹凸を探して，クレヨンなどで写し取る造形活動です。写し取った模様を見合ったり，その模様を基に絵にしたりすることができます。

解説

材料・用具
画用紙，クレヨン，はさみ，のりなど

材料・用具
共同絵の具，画用紙や模造紙　など

ペタペタ・アート

絵の具の付いた手や指を画用紙などにペタペタすると，手の形や重なり合った形ができあがります。活動範囲を広げると，足や腕などを使った全身活動に発展させることができます。子どもたちの喜ぶ，身体性に富む造形活動です。

自分の指や手は，一番身近な筆記具です。絵の具を付けた手でペタペタしたり，のばしたりして，身体的な造形表現を楽しみます。

解説

油粘土でぺったん

使わなくなった油粘土に絵の具を付けて，スタンプあそびをします。油粘土を好きな形に変えて押すとふしぎな形が現れます。乾燥したらクレヨンや絵の具などで加筆して，想像の世界を絵にすることができます。

不要になった油粘土を共同で使います。絵の具は濃い目に溶かして，何度も試したりして，スタンプの跡がはっきり残るようにします。

解説

材料・用具
油粘土，絵の具，画用紙　など

知っとく
惣菜などの容器の食品トレーは，発泡スチロールでできています。発泡スチレンとも呼ばれ，耐水性もあり，軽くて加工しやすい手軽な材料なので，スタンプづくりなどにも使うことができます。形を写すときは，水で溶いた絵の具に数滴洗剤を入れると，界面活性剤の働きで色が付きやすくなります。

4 工作アイデア　わくわく工作あそび

紙パックで

特徴
- 耐水性があるので，水遊びにも使える。
- 輪切りにすることで，いろいろ使える。
- 軽くて丈夫なので，組み合わせて大きな形をつくることができる。

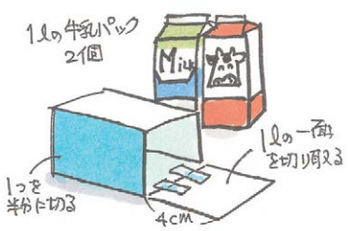
接着
- 合成ゴム系接着剤 参照 p.51
- セロテープ
- ガムテープ

着色
- 油性ペン
- 絵の具（木工用ボンドと中性洗剤数滴を混ぜておく）

知っとく 牛乳などのアレルギーのある子どももいるため，牛乳パックを使う場合には事前によく確認しておくことが大切です。アレルギーのある子どもには他の紙パックを使うようにしましょう。

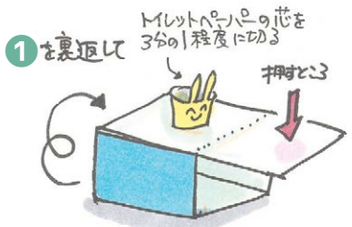
アイデア 1　ジャンプ！

❶



1リットルの紙パックを二つ用意します。一つは横半分に切り，片方は一面を切り抜き，セロテープでとめます。

❷



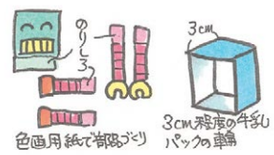
トイレットペーパーの芯を輪切りにして人形をつくります。❶をひっくり返して人形を片側に置きます。

❸

人形を置いていない側の端を押すと……ジャンプ！

アイデア 2　ダンス・ダンス♪

❶



紙パックを3cm幅に輪切りにします。

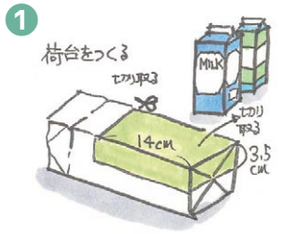
❷

色紙などで頭と手足をつくり，❶にテープでとめます。

パックの上下を切り，自分の手首や足首にはめて遊ぶのもよいでしょう。

アイデア 3　トラックをつくってあそぼう

❶



1リットルの紙パックを二つ用意し，一つ目のパックで荷台部分（横14cm×高さ3.5cm）をつくります。

❷

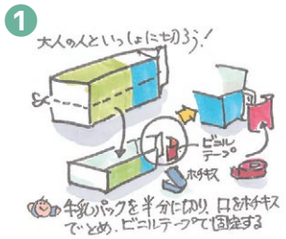
色紙などで車体を飾ったり，車輪を付けたりします。

❸

自分だけの荷台付きトラックが完成！

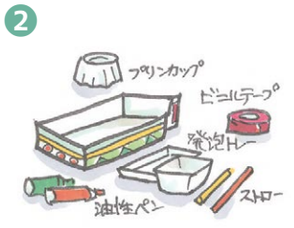
アイデア 4　船をつくって浮かべよう

❶



紙パックを半分に切り，発泡トレーにビニルテープで接着します。

❷



小さな紙に絵をかき，ストローに貼って旗をつくります。

❸

油性ペンなどで装飾し，水に浮かべて船の完成！

紙コップで

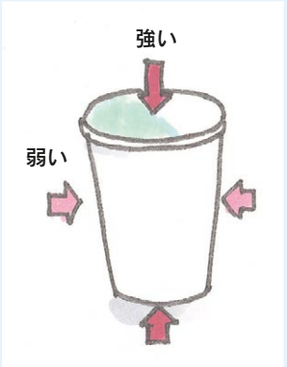
特徴
- 切り開いたり，折り曲げたりする加工がしやすい。
- 天地の方向からの力に強く，横からの力に弱い。
- 同じ形状のものが大量に入手しやすい。

接着
- でんぷんのり
- セロテープ
- 木工用接着剤

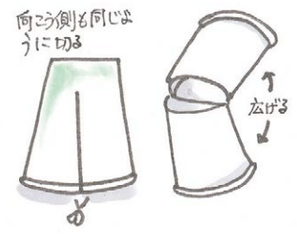
着色
- カラーペン
- 絵の具

知っとく

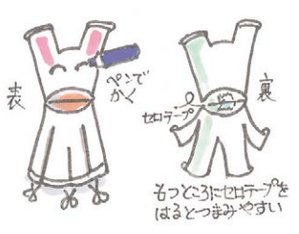
紙コップや紙皿は，身近で手に入りやすい材料です。使用後に捨てるとゴミになりますが，使うと「材料」に生まれ変わります。造形表現の喜びにつながる最初の一歩は，身の回りの様々なものが「材料になる」ことに気付く目や心を育てることです。



アイデア 1　こんにちは



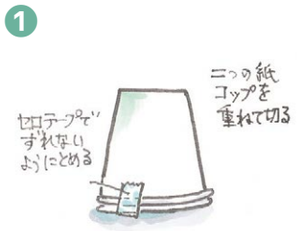
紙コップの底に向かって，切り込みます。反対側も同じように切ります。



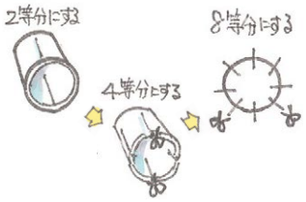
広げた紙コップの底が，パクパク動く口のようになります。カラーペンなどで絵をかき，指がすべらないようにセロテープでとめます。

パクパク「こんにちは！」。みんなで楽しい人形劇ができます。

アイデア 2　とべとべUFO！



二つの紙コップをセロテープで仮どめして，重ねて動かないようにします。



２等分，４等分そして８等分というように，二つの紙コップを切り込みます。

仮どめを取り，広げて８か所をセロテープでとめ，ペンなどで模様をかきます。

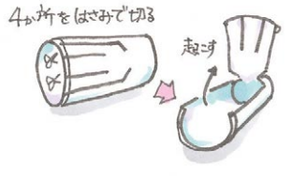
アイデア 3　いないいないばあー

発泡スチロールの球や紙粘土で頭をつくり，胴は割り箸に布やカラーポリ袋を巻いてつくります。

紙コップの底に穴を開け，割り箸を通します。あらかじめ紙コップに隠れる大きさに注意してつくります。

「いないないばあ！」と，子どもの動きに合わせて遊びます。

アイデア 4　ゆらゆら ゆらり

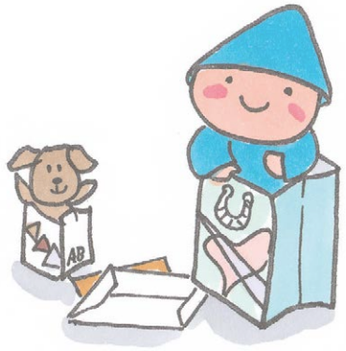


紙コップの曲面を利用してつくります。４か所をはさみで切ります。

紙コップの底部にコインやビー玉などのおもりをセロテープでとめます。

カラーペンなどで絵をかいて，ゆらりゆらりと揺らして遊びます。

紙袋で



特徴
・薄茶色のクラフト紙のものが多い。包装紙などは豊富な色や柄があり，それを生かした活動もできる。
・様々な大きさや形があり，同じ大きさのものを入手しやすい。
・はさみできったり，のりで貼ったりするなどの加工がしやすい。

平　袋　封筒などのように，ほぼマチのない平たい袋。
角底袋　買い物袋などに利用される。マチがあるので入れたものが安定しやすい。

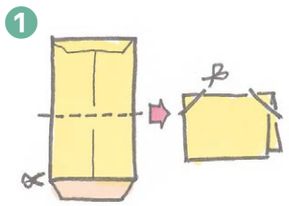
接着
・でんぷんのり
・テープ類
・ホチキス
・木工用接着剤

着色
・ペン
・クレヨン
・絵の具

知っとく

焼き芋屋さんの紙袋，おばあちゃんのこたつの上にあった広告紙でつくったゴミ入れの箱，何度も使う古封筒など，ものを大切にする気持ちや，身近なものを工夫して使うなど，紙と私たちの生活は，切り離すことはできません。人間の知恵が，そこに働いています。紙の袋には吸水性や通気性があります。耐水性のあるポリ袋など用途に応じて使い分けています。

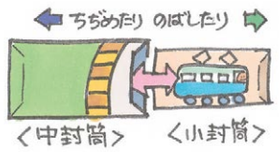
アイデア 1　封筒のパペットさん



封筒を半分に折り，重ねたまま上の角を二つ切り落として指を入れる穴をつくります

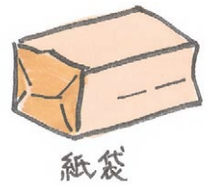
上下に気を付けて，封筒にクレヨンやペンで絵をかいたり，色紙を貼ったりして飾ります。

アイデア 2　のびる絵

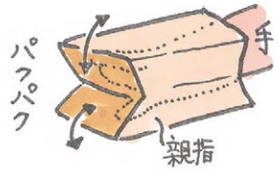


平袋の封筒の中小を準備して，つながる絵をかいて，伸ばしたり，引っ込めたりしながら遊びます。

アイデア 3　パクパク！



底にマチがあり，腕まで入る紙袋を準備します。



紙袋の底を内側に谷折りにして，手を入れてパクパクさせます。

お話をつくって人形劇をしましょう。みんなですると楽しいよ。

アイデア 4　ふくらませて

紙袋をもんで，しわくちゃにします。その中に丸めた紙を入れて，ボリュームをだします。

飾りを付けて，お気に入りの魚や動物に変身させます。だっこすると気持ちいい。

アイデア 5　レストランごっこ

小さな紙袋はくしゃくしゃにもんで，ホットケーキやトリの唐揚げができます。いらっしゃいませ！

アイデア 6　身に付けて，カッコいい

おしゃれな服

デパートなどの買い物袋に，首や腕が通る穴をはさみで開けて，背中に羽などの飾りを付けて，ファッションショーをしよう。

カッコいいお面

頭が入るほどの大きさの紙袋に顔や目が見える穴をはさみで開けて，お面をつくります。

すてきな帽子

頭の上にのる程度の大きさの紙袋にリボンを付けて，素敵な飾りで帽子をおしゃれにします。

トレー・パックで

特徴
・プラスチックや発泡スチロールなどでできている。
・耐水性がある。
・軽量で薄いものが多く，加工しやすい。

接着
・セロテープ
・布ガムテープ
・ビニルテープ

着色
・油性ペン
・絵の具（木工用ボンドと中性洗剤数滴を混ぜておく）

知っとく

トレーやパックは造形活動の材料として活用できるほか，卵パックなどはもともとの形を生かして絵の具パレットのように使うこともできます。

アイデア 1　あおいでゴー！

❶

トレーに油性ペンなどで好きなものをかきます。

❷

できたものを平らなところに置き，うちわなどで下から風を送り込みます。

アイデア 2　浮かべてゴー！

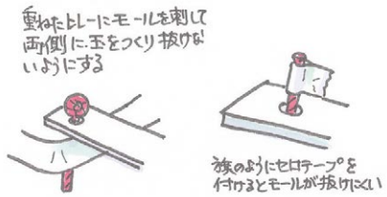
トレーを油性ペンやビニルテープなどで飾り，浮かべてあそびます。

アイデア 3　手足が動くよ！ トレーロボット

❶

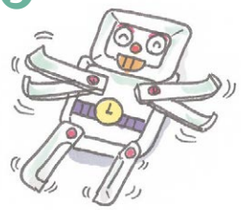
トレーをいくつか組み合わせるようにして頭・胴体・手足をつくります。

❷



それぞれのパーツに鉛筆などで穴をあけ，モールでつなぎます。モールが抜けてしまうようなら，上図のようにセロテープを巻き付けましょう。

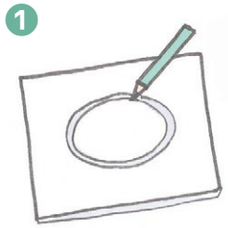
❸



パーツをつないだら，油性ペンなどで色を付けます。シールを貼ることもできます。

アイデア 4　絵の具でスタンプ

❶



トレーを好きな形に切り，鉛筆などでへこませるようにかいていきます。

❷

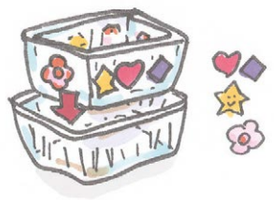
中性洗剤を少し混ぜた絵の具を用意し，たっぷりと塗ります。

❸

指で絵の具をこすってなじませ，紙を押し付けて上からこすります。

アイデア 5　はさんで グー！

❶



二重にしたパックの間に，ビーズや切った色紙を挟み込んでつくります。

❷

外側をシールで飾ったり，油性ペンで絵をかいたりしてもよいでしょう。

アイデア 6　吹いて くるくる

同型のパックをかぶせて，その中に小さく切った紙を入れ，ストローを挟み，吹きます。

ペットボトルで

特徴
- 耐水性があり，透明である。
- 軽くて丈夫なので，組み合わせて大きなものをつくることができる。
- 本体は硬く，加工しにくい。

接着
- セロテープ
- 布ガムテープ
- ビニルテープ
- 合成ゴム系接着剤（Gクリヤー）

着色
- 油性ペン
- クレヨン（ロウ分が多いもの）
- 絵の具（木工用ボンドと中性洗剤数滴を混ぜておく）

知っとく

透明であることや，持ちやすい形状などを生かした造形活動ができます。まずはペットボトルに，インクや食紅（食品用染料）などを混ぜて色水をつくってみましょう。そこから造形活動が広がります。

アイデア 1　きらきらボトル

❶

お菓子のアルミ包装紙などを細かく切ったり，ビーズなどの耐水性のある小物を準備します。

❷

切ったものなどをペットボトルに入れて水を入れ，フタをしっかり閉めセロテープや布ガムテープでとめます。

❸

ペットボトルを上下に振り，細かく切った包み紙がきらきら光りながらゆったりと落ちていきます。おひさまに当てるともっときらきらします。

アイデア 2　カタカタたいこ

❶

タコ糸の端にペットボトルのふた（ボタンも可）をセロテープでとめます。

❷

模様を付けた後，持ち手に厚紙を巻いて入れて，ガムテープでとめます。

❸

ペットボトルの底近くの左右に，タコ糸の端をセロテープでとめて回します。

アイデア 3　ふりふり シェイク

❶

活動前に，学校中の教室を回って，使えなくなった小さなチョークを集めます。

❷

小さなチョークを水の入ったペットボトルの中に入れて，シェイクします。

❸

ペットボトルをグラデーションになるよう並べてみるといいですね。

アイデア 4　つないで みると

❶

１リットルのペットボトルの底を切り取ります。底を切り抜くときには大人と一緒にしましょう。

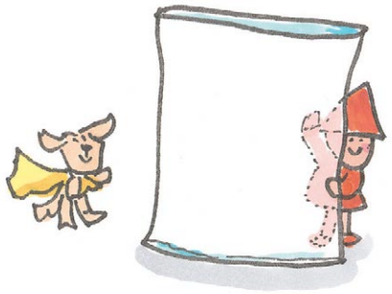
❷

底を切り取った同型のペットボトルをセロテープやビニルテープでとめます。

❸

ビー玉を落としたり，水を落としたり遊び方は自由です。底があると行ったり来たりします。

ポリ袋で



特徴
- 耐水性があり，透明である。
- 軽くて丈夫。
- やわらかいので，はさみで切るなどの加工はしやすい。

接着
- セロテープ
- 布ガムテープ
- ビニルテープ
- 合成ゴム系接着剤（Gクリヤー）

着色
- 油性ペン
- クレヨン（ロウ分が多いもの）
- 絵の具（木工用ボンドと中性洗剤数滴を混ぜておく）

知っとく　ポリ袋とビニル袋の違い

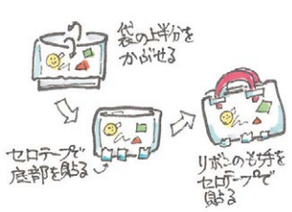
一般的には，ほぼ同じ意味で使われています。厳密にいうと「ビニル」とは塩化ビニル樹脂のフィルムを指しており，水道管やホースなどに使用されています。燃えると黒煙を出します。ポリ袋（ポリエチレンやポリプロピレン製）は水に浮く性質があります。

アイデア 1　マイ・バッグ

❶

ポリ袋の上半分を後ろに折り返して，色紙をセロテープで貼って飾ります。油性ペンが乾くまで待ってから組み立てます。

❷



はじめにポリ袋の折っていた上半分を戻して，色紙などで飾った面にかぶせ，底の部分をセロテープでとめます。

❸

リボンで持ち手などをつくり，「買い物ごっこ」に出発です。何を買って入れようかな。

アイデア 2　ポンポン・バルーン

❶

ポリ袋に丸めたり，ちぎったりした折り紙や広告紙などを入れます。

❷

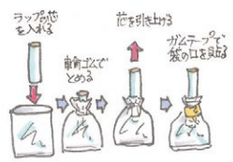
ポリ袋の中に空気をたっぷり入れて袋の口を閉じます。底の両角は内側に折ってとめます。

❸

ポリ袋にシールで飾ったりしたあとに，ボールのようにポンポンはねさせて遊びます。

アイデア 3　とべとべロケット！

❶



ポリ袋にラップの芯などを入れて，芯とポリ袋の口を輪ゴムでおさえます。

❷

ポリ袋の底と近いと，空気の量が多く出ないので，引き上げ空気がもれないように粘着テープでとめ，芯から息を吹き込みます。

❸

袋に芯から空気を吹き込み，紙コップなどをのせ，袋の下を手や脇でつぶしてとばします。

アイデア 4　カサ袋の色紙・リース

❶

お花紙を適当な大きさに丸めて，色を交互にするなどしてカサ袋に詰めていきます。

❷

輪にしてセロテープでとめ，リボンを結びます。

❸

シールや油性ペンなどで飾ります。

接合・接着

接着剤

接着剤の種類は多く，接着したい材料や目的に応じて選択することが必要です。接着剤を大別すると，「有機溶剤系」と「無機溶剤系」に分けられます。さらに有機溶剤系接着剤は「天然系」と「合成系」に区別されます。学校で多く使われるのは天然系のでんぷんのりと，合成系の化学接着剤です。

でんぷんのり
（商品名：ヤマトのり など）

用途 紙同士など

特性 でんぷんを水に溶き，熱を加えてのり状にしたもので，つぼやチューブに入っています。直接手で触っても安全ですが，市販品には防腐剤が入っていることに留意します。

液状のり
（商品名：アラビックヤマト など）

用途 紙，布，セロハンなど

特性 事務用であるため接着力は強くありません。合成樹脂（PVAL）を主成分としており，のりの出る部分がスポンジになっているため，手を汚さず塗ることができます。

スティックのり
（商品名：ピット，プリット など）

用途 紙や布，和紙などの薄い紙など

特性 水分がなく染み出しにくいですが，事務用であるため接着力は強くありません。容器の下部を回すと固形のりが繰り出されるので，手を汚さず塗ることができます。

木工用接着剤
（商品名：木工用ボンド）

用途 厚紙，段ボール，木，布など

特性 水溶性で，白い色をしており，乾くと透明になります。ダンボールの場合，接着剤の水分を吸収するので，多めに塗るか，二度塗りするとよいでしょう。

合成ゴム系接着剤
（商品名：G17，Gクリヤー）

用途 紙，布，木，プラスチックなど

特性 中身が黄色のもの（G17）と，透明なもの（Gクリヤー）があります。細い部分を付ける場合には，ふちに接着剤を付けて少し時間を置き，半乾きの状態で押し付けて接着します。

ホットボンド（ホットメルト）

用途 紙，木，布，石，プラスチックなど

特性 棒状の接着剤をグルーガンに装着し，ヒーターで溶かして接着します。接着剤が冷えて固まるまで，押さえて待ちましょう。機器や接着剤は触ると熱いので，注意して使用しましょう。

知っとく 商品パッケージ（説明書）を見ること

用途の広い木工用の接着剤は，速乾性と通常のものがあります。不用の台紙などに，適量の接着剤を置いて，へら状のもので接着するなど工夫しましょう。おしぼりなども準備しておくといいですね。細かい部分の接着があるときには，「細塗タイプ」の先が細い付け口が付いているものがお勧めです。また，屋外で使用するものは「耐水性」「屋外使用可」など，屋外で使用できるタイプを選びます。

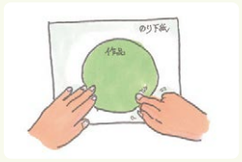
でんぷんのりの使い方

準備 机にビニルシートや新聞紙などを敷き，作品を貼る画用紙などや，作品を用意します。のりは「のり下紙」の上で付けます。つぼのりでない場合には，のりを置く台紙（紙パックを切り開いたものでもよい）に，使う分量を出しておくとよいでしょう。のりの付いた指を拭く濡れタオルも用意します。

❶ 適量ののりを取る

のりを付ける指は「中指」が多いようですが，親指や人差し指でも構いません。

❷ よくのばして塗る



のりがはみ出し，のり下紙に付いた時は，のり下紙を替えましょう。

❸ 指をきれいにする

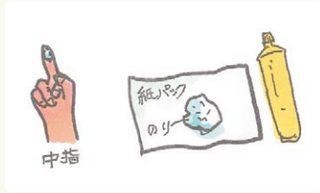
指に付いたのりは濡れタオルでふき取り，作品を汚さないようにします。

❹ 手のひらや指で押さえる

「ペッタンしようね」「紙の上からアイロンかけようね」などの言葉かけをするとよいでしょう。

合成ゴム系接着剤の使い方

❶ 適量ののりを付ける



チューブの口から直接塗るか，小さなスプーンや紙を折ってつくったへらなどで塗ってのばします。適量を出すために，チューブは下の方を押して使います。使ったら，すぐにキャップをしましょう。

❷ 少し乾かしてから圧着する

しばらくそのままにして空気に触れさせた後，圧着します。はみ出した余分な接着剤は，布や不用な紙などですぐにふき取りましょう。

接着剤が手に付いたときは

指などに付いた場合，湯などで洗うとはがれますが，接着剤の種類によって適切な処理が異なります。事前に製品の取扱説明書を確認しておきましょう。

粘着テープ

粘着テープには，セロハンテープ(セロテープ)をはじめ，クラフトテープ，ビニルテープなど，多くの種類があります。粘着テープは粘着剤をセロハン，クラフト紙，ビニルなどに塗布したもので，いろいろな幅や量のものがあります。用途によって使い分けるようにしましょう。

セロハンテープ(セロテープ)

用途 紙同士など

特性 セロハンの片側に接着剤を塗布したもので，粘着力は強くありません。無色透明なもののほか，色付きのものもあります。テープカッターと併せて使うと幼児でも簡単に扱えます。テープカッターの向きを考えて子どもに提示するとよいでしょう。

布ガムテープ

用途 段ボールなど

特性 スフモスという素材に粘着剤を塗布したもので，粘着力が強く，丈夫です。また，手でまっすぐに切ることができます。色数も豊富で，油性ペンを使えばテープに文字などを書くこともでき，重ねて貼ることも可能です。

クラフトテープ

用途 段ボールなど

特性 クラフト紙に粘着剤を塗布したもので，粘着力が強く，布ガムテープより安価。段ボールなど，大きなものを貼り合わせる時に使うと便利ですが，基本的に上から着色できません。はがした後に粘着成分が残ることがあるので，壁や机に直接貼ることは避けましょう。

ビニルテープ

用途 紙，空き容器，トレーなど

特性 塩化ビニルフィルムを使用しており，伸縮性があります。粘着力は強くありませんが，丈夫で耐水性があるので，水遊び用の工作などの適しています。他に棒状の材料を束ねて巻くようにとめることもできます。

両面テープ

用途 紙，空き容器など

特性 両面に粘着面があり，片面を貼ってから反対側の剥離紙をはがして使います。幅や厚み，強度なども様々なものがあります。接着面が内側に隠れるため，きれいに仕上げることができます。

マスキングテープ

用途 紙など

特性 粘着力が弱い，紙粘着テープです。本来は塗装の際に色を付けたくないところに使用する養生用でしたが，近年ではテープそのものに色や模様が付いたものが多種出ており，装飾用にも使われるようになりました。

知っとく

のりとセロテープ，どちらを使う？

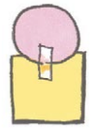
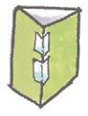
紙をとめる際には基本的にのりを使い，のりではとめにくい素材にはセロテープを使いましょう。幼児期にはのりの感触を味わい，接着の意味や知識を体験的に学ぶ機会をつくることは重要です。

セロテープの弱点

油分があるものの接着には向きません。また，接着力が弱いため，長時間の使用や屋外での使用は避けましょう。

発達と指導のめやす

(注)子どもには個人差がありますので，あくまでめやすと考えましょう。

	前　期		後　期	
2歳児		紙をセロテープでとめる	リボンなどの細いものを，紙にとめる	
3歳児		 重ねた2枚の紙などをつなぐ	紙の帯や紙筒をつなぎ合わせたり，空き容器などを土台にとめたりする	紙を丸めて円柱にし，テープを横にしてとめる
4歳児	紙を揃えてつなぐ	紙を折り，テープを横にしてとめ，三角柱にする	 紙を折り，テープを縦にしてとめ，円柱・三角柱にする	三角柱をつくり，テープを縦にして土台に貼る
5歳児	四角柱をつくり，テープを横にして土台の上に貼る		セロテープを輪にして，両面テープのようにとめる	

《参考図書》竹井史「幼児期の終わりまでに身につけたい 造形道具の知識と技能が楽しくしぜんに育つ本」メイト社　2019

ホチキス(ステープラー)

ホチキスは，ステープル(二股状のとじ針の意)を使って紙をとじる用具です。最近ではとじ針のないものもありますが，造形活動には不向きです。とじ針には様々なサイズがあり，一般的には小型(10号)が使われています。

小型ホチキス

一般的に使用されているホチキスです。針を造形活動の際には，子どもの手の大きさを考えて選ぶとよいでしょう。押す力が弱くてもとじることができるものもあります。

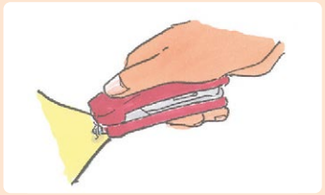
ガンタッカー

掲示板などに押し付けるようにして使います。力が必要なため，子どもが使うことはありませんが，掲示物や作品を壁に貼る時に活用するとよいでしょう。

ホチキスの使い方

ホチキスを持ち，先端上部に親指をのせます。その他の指で下部をしっかりと支えます。親指の位置が下がってしまうと，力が十分に伝わりません。また，とじる紙が動かないように気を付けましょう。

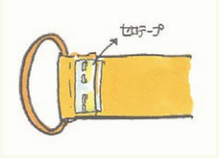
●失敗した時



ホチキス下部後ろ側にあるリムーバーをとじ針に差し込み，引き抜きましょう。抜いたとじ針はケガの原因になりますので，缶などに入れて処理するように伝えます。

安全に使うために

・ホチキスのとじ針が出てくる場所に，指を挟まないようにします。
・紙で帽子などをつくる時には，肌に直接触れる部分にとじ針の先端が当たらないよう，針は外側に出るようにします。念のため，針の先端をセロテープなどで覆っておくとよいでしょう。



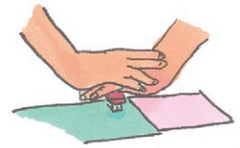
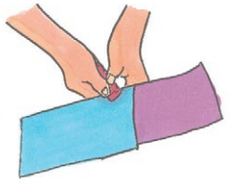
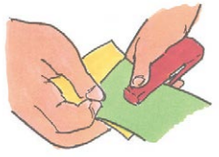
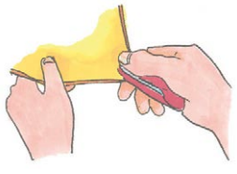
知っとく

掲示物を貼る

ホチキスは，挟んでとじるほかにも，画鋲のように使うことができます。ホチキスを開いて掲示物を留めたい位置に当て，先端のとじ針の部分を手のひらで押し込むようにします。

発達と指導のめやす

(注)子どもには個人差がありますので，あくまでめやすと考えましょう。

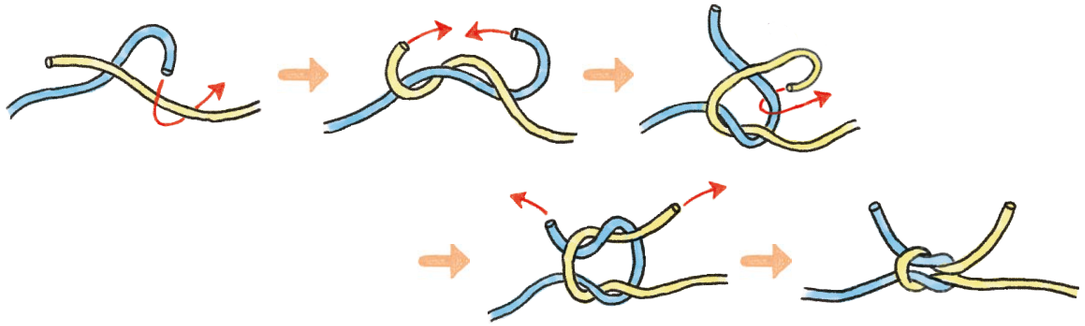
3歳児〜		最初はホチキスを机の上に置き，両手で押すようにしてとじます。 ① **上から真っすぐに力を加えること** ② **とまる音が聞こえるまで押すこと** などの声掛けをしながら進めましょう。斜めに力を加えると，うまくとじることができないだけなく，ホチキスが倒れる危険性があります。
		ホチキスを机の上に置き，片手で押してとじます。両手よりもバランスがとりにくいため，真っすぐ力がかかるように特に意識させます。
4歳児〜		ホチキスを両手で持ち，握るようにしてとじます。ホチキスの先端上部に左右の親指を重ねて押します。
		ホチキスを片手で持ち，握るようにしてとじます。紙がずれてしまう時には，指導者が紙を持つなどして支援します。
5歳児〜		ホチキスを片手で持ち，もう片方の手で紙を持ってとじます。とじる紙の枚数や厚さによって，必要な力が変わってきますので，まずは薄い紙で練習するようにしましょう。

ひも

接着剤などの用具を使わなくても，ひもやリボンを使ってものとものとをつなぎ合わせることができます。１本のひもを他のものと結び付けたり，２本のひも同士を結べば長いひもになったりします。贈り物をリボンで装飾することもできます。

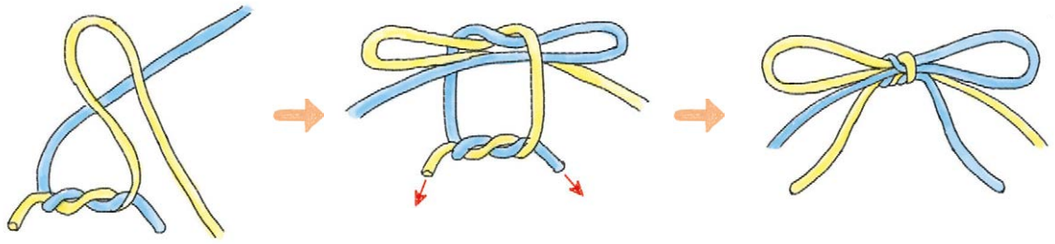
片結び

本結び，真結び，細結びとも呼ばれます。「結ぶ」の基本です。



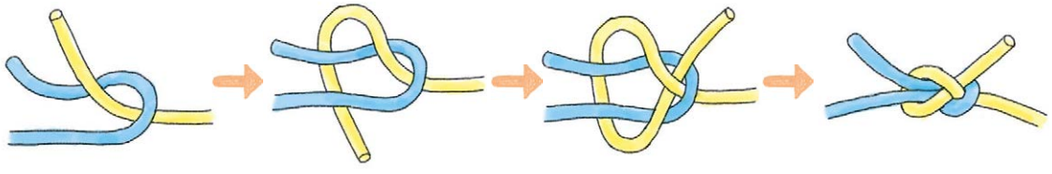
蝶結び

片結びの両端を引き解ける状態にしたもので，靴ひもなどを結ぶ時にも使います。



はた結び

機織りの糸が切れた時に使っていた結び方です。つなぎ結びとも呼ばれます。



接着剤適合表

A / B	金属	タイル・石材	陶磁器	ガラス	木・化粧板	硬質プラスチック	発泡スチロール	ビニル	ゴム	皮革	布	紙・ボール紙
紙・ボール紙	合成ゴム 酢酸ビニル	合成ゴム 酢酸ビニル セルロース	合成ゴム 酢酸ビニル セルロース	合成ゴム 酢酸ビニル セルロース	合成ゴム 酢酸ビニル	合成ゴム 酢酸ビニル	酢酸ビニル	塩化ビニル 合成ゴム 酢酸ビニル	合成ゴム	合成ゴム 酢酸ビニル	合成ゴム 酢酸ビニル セルロース	酢酸ビニル セルロース
布	合成ゴム	合成ゴム	合成ゴム セルロース	合成ゴム セルロース	合成ゴム 酢酸ビニル	合成ゴム 酢酸ビニル	酢酸ビニル	塩化ビニル 合成ゴム 酢酸ビニル	合成ゴム	合成ゴム 酢酸ビニル	合成ゴム 酢酸ビニル	
ビニル	塩化ビニル	塩化ビニル	塩化ビニル	塩化ビニル	塩化ビニル	塩化ビニル	塩化ビニル 酢酸ビニル	塩化ビニル 合成ゴム				
発泡スチロール	酢酸ビニル	酢酸ビニル	酢酸ビニル	酢酸ビニル	酢酸ビニル	酢酸ビニル	酢酸ビニル					
硬質プラスチック	シアノアクリレート 酢酸ビニル	合成ゴム	合成ゴム	合成ゴム	シアノアクリレート 合成ゴム	合成ゴム						
木・化粧板	合成ゴム 酢酸ビニル	合成ゴム 酢酸ビニル	合成ゴム	合成ゴム	合成ゴム 酢酸ビニル							
ガラス	多用途	多用途	多用途	多用途								
陶磁器	多用途	酢酸ビニル	酢酸ビニル									
金属	シアノアクリレート											

表の見方

接着したい材料を左の表のA・B欄からそれぞれ選び，AとBで交わるところに当てはまる表示名を確認し，下の表で商品名と照合する。

	表示名	品　名	主な商品名
①	セルロース	セルロース系	ボンド工作用 K，セメダイン工作用 C
②	酢酸ビニル	酢酸ビニル樹脂エマルジョン系	ボンド木工用，ボンドタッチ
		酢酸ビニル樹脂系	セメダイン発泡スチロール用，カネスチック，クリアボンド
③	塩化ビニル	塩化ビニル樹脂系	ビニル用ボンド
④	合成ゴム	合成ゴム系	ボンド G17，G クリヤー，速乾ボンド G
⑤	シアノアクリレート	シアノアクリレート系	アロンアルファ，瞬間接着剤
⑥	多用途	シリル化ウレタン系	ウルトラ多用途 S・U

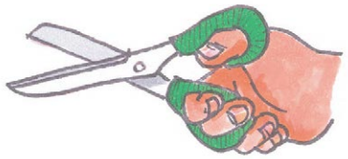
たとえば……

来週は「プールに浮かべて遊ぶもの」をつくります。主材料の牛乳パック，いちごパック，ペットボトル，トレーなどが用意できました。これらの土台にプリンカップやストローを接着すると予想されます。さて，どんな接着を想定して，どんな準備をしますか？

切る用具

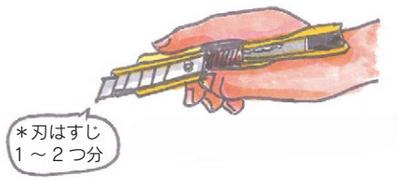
切る用具には，はさみやカッターナイフ，ダンボールカッターなどの「刃物」があります。包丁やはさみは，私たちの生活に欠かすことのできない用具です。用具は正しく安全に使うことが大切です。使い慣れると自分の思いに合った形をつくりだすことができます。

はさみ



・はさみを持つ時は，小さな穴に親指を入れ，大きな穴に人差し指・中指もしくは中指・薬指を入れる。
・子どもの手に合う，先端がとがっていないものを準備するのがよい。
・円を切る時は，はさみではなく紙を回しながら切る。
・人に渡すときは，刃先を包むように持ち，柄を相手に向けて渡す。

カッターナイフ



・えんぴつと同じ持ち方をする。まっすぐに切りたい時などに使うとよい。
・安全面で，幼児が単独で扱うのは難しい。
・幼児が扱うのは危険なため，使う必要がある時には必ず大人が付いて行う。
・刃は 1 ～ 2 メモリ程度出すようにする。

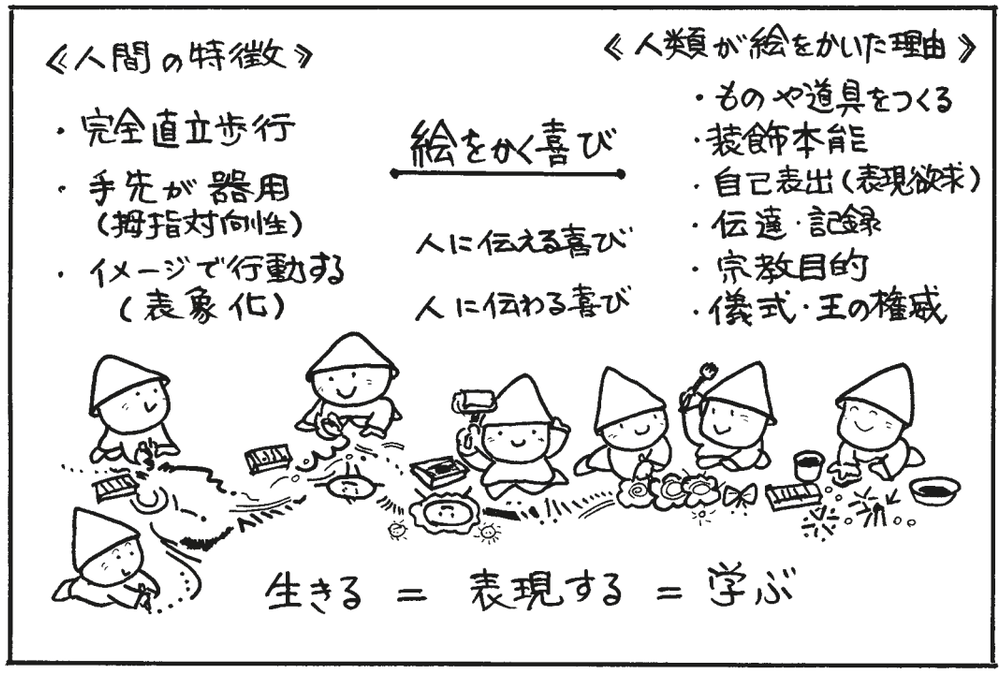
ダンボールカッター

・ダンボールを切るための用具。持ち手の形状は様々なものがあるので，使いやすい持ち方をするとよい。
・使う時には切るものの裏面や裏側にものや人がいないことを注意して使う。

第2部

理論編

1 人間はなぜ絵をかくのか



POINT

●発達

発達は，身体や言葉など，大人に向かう具体的な対象の変化・変容といえます。絵をかいたり，ものをつくるなどの表現にも発達があります。乳児期から身体性を基にした表現が生まれます。幼児期のなぐりがきのような，運動から生まれた線が意図的にコントロールされた線へ変化します。これは身体の発達（骨格や関節，感覚機能など）があってはじめて生まれるものです。成長は言語や概念，思考力などの能力を伴いながら，一体的に発達していきます。

●成長

「成長（生長）」は，体が大きくなることや，植物などにも使われます。精神的に成長したなど，子どもから大人に近付く様態の変化も表しています。本編では，対象が具体的に変化していく「発達」と，より総合的で包括的な「成長」を使い分けています。

●表出と表現

「表出」は，内面にある感情などを吐露するように，外に向けて現れるのに対して，「表現」は相手に伝わるように形式化したり，作品に置き換えたりすることです。赤ちゃんが空腹で泣くのは「表出」です。役者が赤ちゃんの真似をして泣くのは「表現」です。ですから，欲求や感情だけでなく論理などの知的な働きも含め行われるのが「表現」といえます。

●系統発生と個体発生

「系統発生」はドイツの生物学者E.ヘッケルが1866年に提唱しました。生物の種族が現れてから絶滅するまでの形態変化を指します。「個体発生」は，受精卵が分裂して成長し，成体になったり，胞子が分裂萌芽して成体になったりするような，生物個体の発生全般をいいます。ヘッケルは「個体発生は系統発生を繰り返す」という表現で両者の関係を端的に表しました。（ブリタニカ国際大百科事典より）

■表現する喜び

人間はなぜ絵をかくのでしょうか。諸説あるでしょう。私たち人間の祖先は，木の上で生活し，木の実などの食物を得ていました。ある時，草原の向こうに何があるのか，好奇心とともに安定した食料調達のために木から降り，集団で生活することを選択しました。しかし，食料の調達ができるようになった一方，大型猛獣の脅威にさらされることになりました。

木の上から草原に降り立った人類は，他の動物とは違い完全二足歩行の道を選びました。このことで，頭脳を大きく拡大させ，前頭葉など新しい脳の部位が発達することになりました。また，完全二足歩行になったことによって両手が自由になり，視神経など全身の感覚も発達し，手先の巧緻性も向上し，道具の発明など新たな文化を創造することを可能にしました。

また，脳の発達は，イメージの形成に大きく寄与しました。表象化と呼ばれる「心像」をつくりだす能力を得たのです。イメージを働かせて，闇夜に響く物音から事物を特定することもできます。そして，音声による意思の伝達も可能になり，集団での会話は知能を一層発達させることになりました。

一方で，完全二足歩行は出産時期を早めることになり，人類は子どもを産んで育てるという「養育」を選択することになりました。これによって，集団で生活する人類に「教育（保育）」が生まれたといえるでしょう。このように考えると，「表現」することは，生きることそのものであり，学ぶことは「生きる」ことなのです。

表現することは，生きる喜びなのです。人間には，これらの人類の英知や能力が体内に備わっていて，絵をかく，音や言葉で伝えるなどの表現する喜びとともに芸術や文化を築いてきたのです。ですから，表現することは，自分をつくりだすことなのです。

＊）林 健三「幼児の絵と心 子どもからあなたへのメッセージ」教育出版　1976
＊）東山 明・東山直美「子どもの絵は何を語るか 発達科学の視点から」NHK ブックス　1999
＊）三木成夫「胎児の世界」中公新書　1983

2 幼児期の絵の発達　－表出期から構成期－

図1

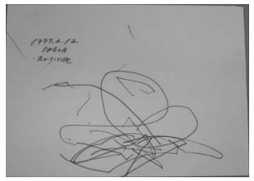


図2：1歳4ヶ月

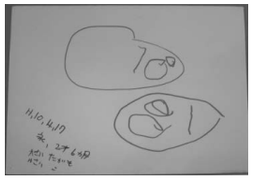


図3：2歳6ヶ月

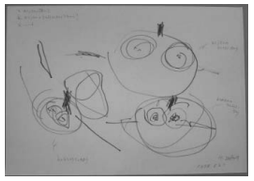


図4：2歳8ヶ月

図5

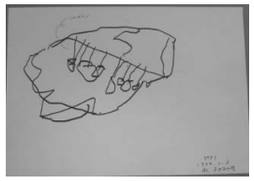


図6：3歳2ヶ月

図7：4歳6ヶ月

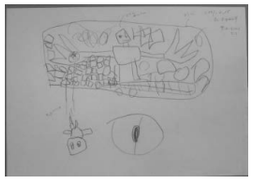


図8：5歳4ヶ月

図9：5歳5ヶ月

図10：5歳6ヶ月

図11：5歳10ヶ月

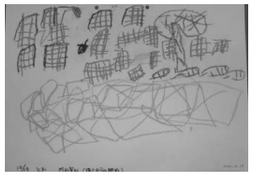


図12：6歳

▲T児の主な絵の発達　1歳から6歳まで

POINT

●表出期　（図2）

鬼丸吉弘は大人が見て何がかいているのか分からない時期の幼児の絵を「表出期」の絵と呼んでいます[1]。これは「なぐりがき」や「スクリブル」「錯画」などとも呼ばれています（図1：1歳3カ月）。やがて，子どもは閉じられた円を描くようになり，かいたものに「ブーブー」などと命名するようになります。言葉の発達とともに実在するものと形とが一致する概念がつくられるようになると，身体性に依拠しながらも，自分で表現し，何をかいているか他人に認められることで，表現する喜びを感じるようになります。

●構成期　（図3・4）

構成期は「何がかかれているか分かるが大人のかきかたと違う」時期の絵です。頭足人は円を中心にかかれ，実際にあるものを触ったように表します。正面や側面から見た形が混合している「観面混合」も，この時期の絵の特徴の一つです。

●再現期

構成期の後には，大人のかき方に変容する「再現期」になります。この再現期は，視覚優位の絵で，「あるものをあるもののようにかきたい」と思う「大人の絵」のことです。思春期や第二次性徴などとも連動しておこります。この時期は，かきたいものと実際の技能差に開きが出たり，他者からの評価にも敏感になるなどの理由から，表現意欲が薄れることがあります。

大人が幼児に指導する場合は，発達を踏まえて子どもの健やかな成長を妨げないことが大切です。子どもの表現したい気持ちを十分に配慮することです。

幼児に，見栄えのよい絵や大人のような絵をかかせることは可能です。しかし，子どもの心を傷付けて行うような指導になっていないか考える必要があります。鬼丸は「子どもの手を借りた大人の絵」を厳しく断罪しています。

[1] 鬼丸吉弘「児童画のロゴス」勁草書房　1981

■絵をかくということ

進化の過程で完全二足歩行を獲得した人類は，手を自由に使うことで脳の発達を一層加速させました。石や木などを道具として使うだけでなく，用途に合わせて新たな道具をつくるようになりました。また，脳の発達により意思を伝える言語（言葉）も獲得しました。絵による表現は，自己の欲求に応じた表現とともに，視覚情報として伝達の機能も持ち合わせ，他者との視覚的なコミュニケーションの方法にもなりました。ですから，子どもの絵の発達は人類の発達そのものともいえます。子どもらしい表現は，特に「構成期」にその特徴をみることができます。

大人は構成期はじめの頭足類の○（まる）を顔として判断しがちですが，幼児にとって○（まる）は，実在する存在の全体であり，横や下に突き出した直線は，腕や足を表しています。その意味では，胴足人といえるかもしれません。

頭足人以降の「構成期」の絵の特徴的な表れには，以下のようなものがあります[2]。

ア）集中構図（誇張・強調表現）（図6）

・幼児はかきたいものを大きくかくことが多くあります。そのため簡略化したり，部分的に誇張や強調したりします。図6はピアノの鍵盤をかいたものです。（図5：3歳2カ月）

イ）抹消表現

・かきたくないものは小さくかいたり，かかなかったりします。対象に対する印象など，感情によることがあります。

ウ）レントゲン表現

・見えないものを見えるようにかきます。幼児にとって自分の捉えた姿や形を表しているので，見える　見えないは大きな問題とはなりません。

エ）同存表現（異時同画）

・時間の異なるできごとが，同一の画面に表されます。我が国の絵巻物なども同様といえます。

オ）カタログ表現

・興味ある対象をカタログのように並べて表します。

カ）基底線（基底面）（図7）

・天地や左右を規定する線のことで，垂直と水平が生まれます。天地を気にせず自由にかいていた時期から発達した表現といえます。画用紙の面が，基底面としてかかれることもあります。

キ）擬人化表現（アニミズム）（図9）

・万物に生命があり，人間と同じような感情をもっていると考え，顔立ちも含めて人間のように表します。

ク）展開図的表現（観面混合・多視点表現）（図8・図10）

・箱の展開図や広げた形のように，真上から見たようにかきます。上からだけでなく横からなど，多視点から見たようにかくので「観面混合」や「多視点表現」などとも呼ばれます。幼児期の多視点は，再現期になると，斜め上からの視点に集約されていきます。図10は全体としては横からかかれていますが，中心部の黒い「の」の字のようなものは，滑り台を上から見たものです。これは視覚的な表現ではなく，滑り台を滑ったときの身体性に委ねられた表現だといえます。

ケ）正面表現（図11）

・体は横を向いていて顔は正面を向いているような表現で，対象の形を捉えやすい向きからかきます。古代エジプトの壁画は，顔は横向きで体は正面というように，反対の構図になっています。

コ）積み上げ表現（図12）

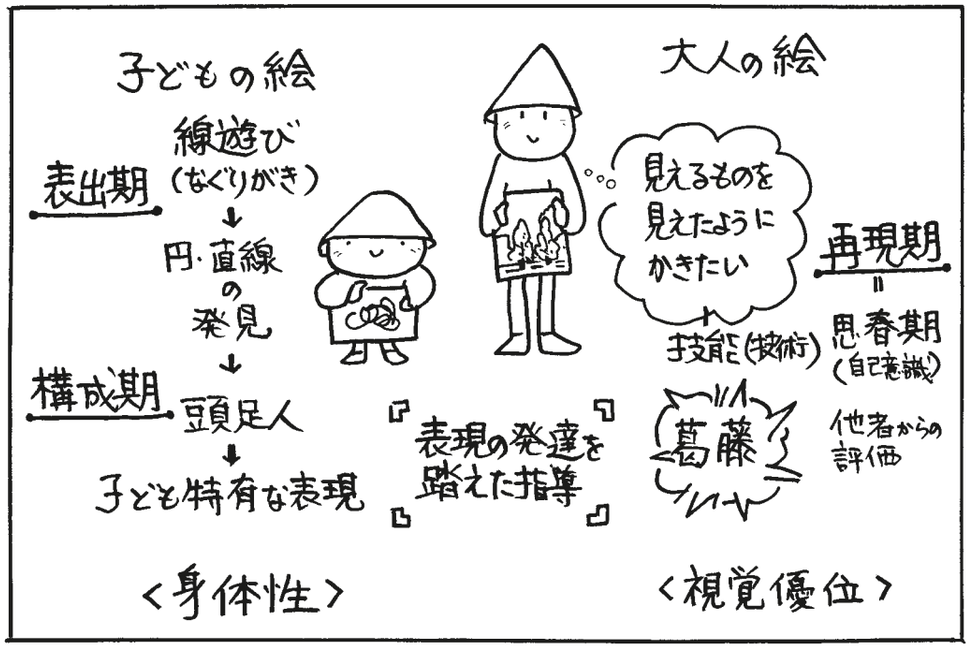
・児童期になると重なりや奥行を表す表現に至りますが，幼児期では重ねず，上を遠いところとしてかいていきます。

[2] 大橋功他「美術教育概論改訂版」日本文教出版　2009（大橋功他「美術教育概論（新訂版」日本文教出版　2018）

＊）鬼丸吉弘「創造的な人間形成のために　子どもの絵を考える」勁草書房　1996

＊）東山明，東山直美「子どもの絵は何を語るか　発達科学の視点から」NHK ブックス　1999

3 発達を踏まえた絵の指導で育む



POINT

●3歳未満の，絵をかく喜び

2歳から3歳にかけて，子どもは線遊びを楽しみます。表出的で身体的な線は，やがて「円と直線」を生み出します。円と直線の組合せによって人物の表現ができるようになります。いわゆる「頭足人」です。

幼児の絵の表現は，身体性を多く含んでいて，体を自分の思いで動かせることの喜びが表れています。

この表出期[1]の表現は，いわゆる「なぐりがき」と呼ばれ，「たたきつけ」「回転」「振幅」「迷走」などに分類されます。筋肉や神経系の発達とともに，複雑で細かな線もかけるようになります。

指導に当たっては，子どもの活動を見守り，温かな声掛けをし，絵をかくことを楽しいと感じることが大切です。無理にかかせたり，大人の論理を要求したりせず，子どもの成長を楽しむことです。

子どもは言葉の発達とともに，絵をかく喜びと，絵をかくことを通して他の人に伝え，喜びを共有できることで，次への活動に挑戦する気持ちをつくりだします。

●3歳以降の，絵をかく喜び

表出期から構成期に入ると，格段に絵の表現が広がります。円と直線を獲得した子どもは，「かきたいことをかきたいようにかく」という自由な精神をもつことになります。まだ身体性を基にかいているので，大人のような視覚優位の絵にはなりません。

円と直線で構成された頭足人の○(まる)は顔ではなく体全体であり，形より触ることのできる実体を優先しています。

子どもは知っていること(身体知)を基に，絵あそびの絵／見たことを基にした絵／人物の絵／想像を基にした絵／したことの絵などをかきます。

子どもは「感じたこと」を表すので，指導者は子どもの思いを受け取り，子どもの「やってみたい」という気持ちを大切にしましょう。ほめる・認める・支援するという姿勢で臨むことです。また，幼稚園や保育所で表現したことを保護者に伝えることは，子どもの豊かな成長につながります。

[1] 鬼丸吉弘「児童画のロゴス」勁草書房　1981

■幼児期の表現

クレヨンやペンを持ち始めてすぐの頃は，紙にたたきつけるようにかいていた乳児期の表現が，2～3歳の時期から，いびつながらも「閉じられた形」が表れます。これには，存在する人やものが表されています。この時期には「マーマ」「ワンワン」など，言葉も一緒に育ちます。概念をつくりだしているといえます。

その後，大人が見て，面白いと感じる表現の絵になります。これを鬼丸は「構成期」[2]と命名しています。

赤ちゃんの時期の「表出期」から進んで「構成期」，そしておよそ9～10歳頃から，あるものを見えるように再現したいと考える大人と同じようなかき方「再現期」に入ります。大人の絵は，第二次性徴などと同じように心身の発達とも呼応しています。

幼児期の幼稚園や小学校低学年では，「構成期」を充分に経験することが大切です。早く大人の絵にしようと指導することで，絵をかくことがキライになったり，苦手だと感じたりすることになります。絵は，自己表現です。上手や下手といった基準で競い合うものではありません。

どの時期においても，子どもは，自分の意思に基づいて表現します。指導者はその時期にしかかけない表現を見守ることが大切です。

表現の過程には3つの系統があります。それは「イメージの系」，「技術(技能)の系」，「伝達の系」[3]です。

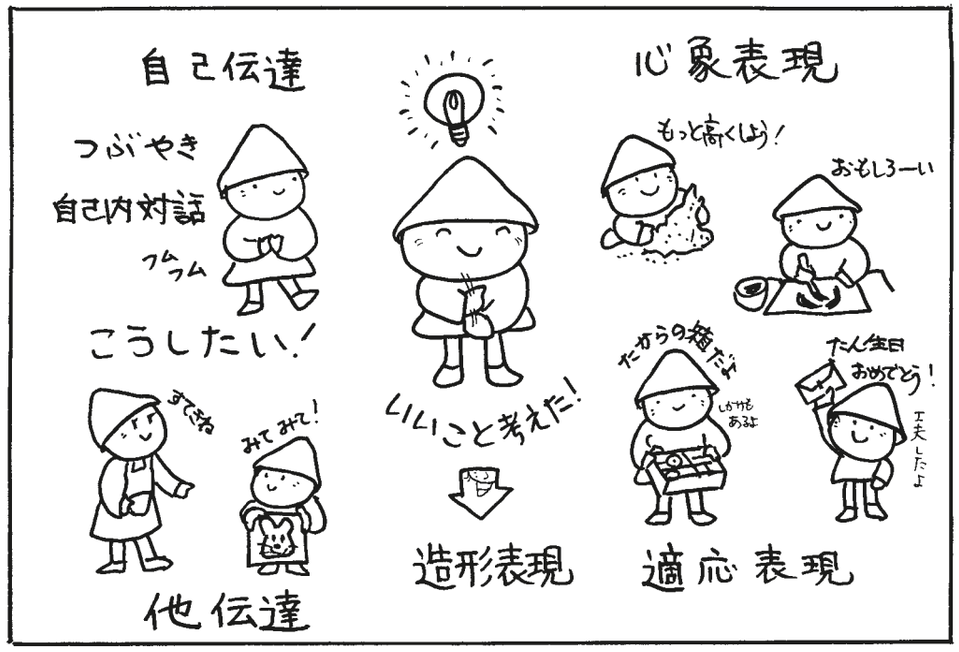
イメージの系は，経験を基にイメージを浮かべる，想像力に関する表現です。技術(技能)の系は，材料・用具に関する知識や経験などを基にした表現です。そして，伝達の系は，自分の思いを伝える役割をもつ表現です。「みて，みて」と人に伝え，受け入れてもらえると，自分の気持ちが絵で伝わったという実感から，表現する喜びを得ることになります。

[2] 同左

[3] 林健造「幼児の絵と心　子どもからあなたへのメッセージ」教育出版　1976

＊）岡田慤吾「絵画表現と材料・用具の世界」サクラクレパス出版部　2009

4 「あ」と「ん」の造形表現



POINT

●子どもの「こうしたい」

子どもの表現は，心の中にあるものを外へ表すことです。その表現には，自分で自分に伝える（自己伝達）と相手に伝える（他伝達）[1]があります。伝わることで喜びが得られ，かくことが喜びになります。

子どもの表現で大切なのは「こうしたい」という気持ちです。子どもが「こうしたい」と自分で考えたこと，表したいことを受け入れる指導であることです。

しかし，「こうしたい」と思っても，うまくいかないこともあります。

「する」は，意欲や意志の領域ですが，「できる」は能力が大きく関わってきます。知識や技能，思考力や判断力など，備わっている力を発揮して実現が可能になることが多いのです。ですから「する」ことでの失敗は，挑戦の数に比例しているといえます。失敗から学ぶことが多いのは，成功するために必要なことは何かを明確にできるとともに失敗から得た知識や技能が，次に生きるからです。

●心象表現と適応表現

絵や粘土で表す立体などは，心に描いたイメージを表現する「心象表現」[2]です。使うなどの目的はなく，心のありようをそのまま表すものです。一方，紙で木の実を入れる箱をつくる場合は，ある目的を踏まえてつくったりかいたりするので，デザインや工作として扱われます。このような，用途などの目的がある表現を「適応表現」（目的表現）といいます。つまり，造形表現には，心の内にあるかきたいことをそのまま表すものと，用途などがあるものや他人に伝えることを目的としたものがあります。

この違いを捉えておくと，活動の過程における指導の手立てが浮かんできます。

しかし，幼児期の造形表現は「領域」として明確に分けられるものではありません。走らない自動車でも，子どもの想像の世界では，見事に動いて楽しむことができるのです。大人の論理や領域の論理を振りかざしてはいけません。

[1] 林健造「幼児の絵と心―子どもからあなたへのメッセージ」教育出版　1976
[2] 林健造，黒川健一，福井昭雄「絵画製作・造形」東京書籍　1986

■感動のあ・い・う・え・お

人間は，言葉にならないけれど「声」ともつかない「声」を発します。

あ!：驚いたとき／**いー!**：「いいね」など，賛同や共感したとき／**うっ!・うーん!**：逆説的な驚きなど，痛いところを突かれたときや困ったとき／**え!・えっ？**：驚いたり，疑問が湧いたりしたとき／**おっ!・おー!**：「すごい」など感激して思わず発するとき……などです。

また，林健造は「あ（阿）」と「ん（吽）」を使って絵の表現と，工作の表現を表しています。[3]

「あ（阿）」は，感嘆の声であり，驚きの心を絵に表すといいます。ですから，「心象表現」です。

「ん（吽）」は，声にならない思考の言葉のことで，ものをつくったりする工作などの「適応表現」です。しかし，幼児期の造形表現は，渾然一体となっていることが多いので，重なり合う活動になります。

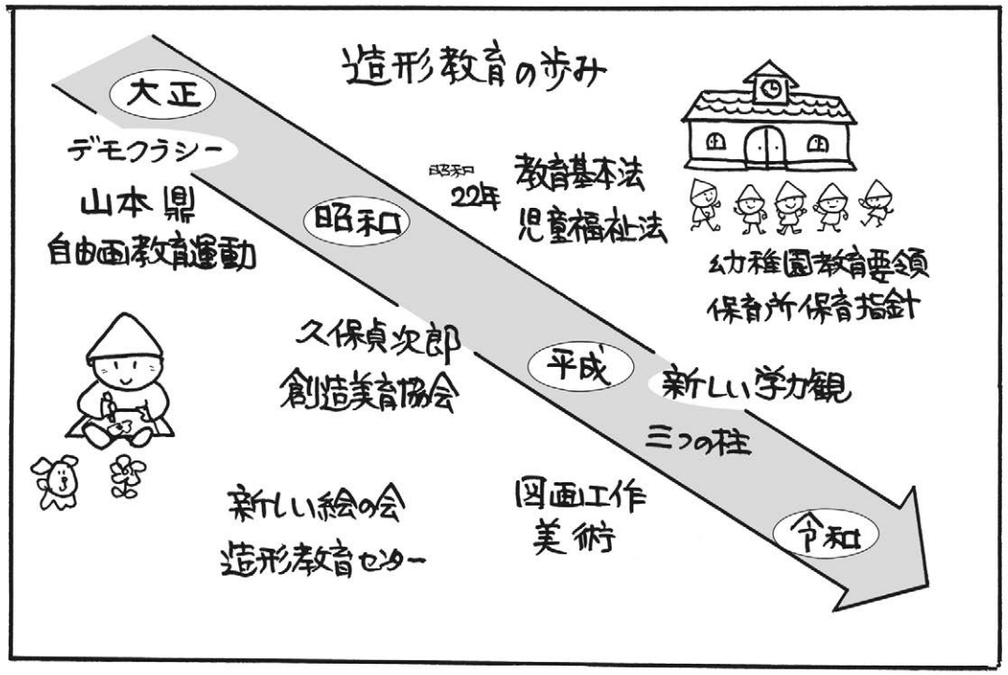
感動と思考は，造形表現活動において，どちらも大切なものです。初めに驚きや感動があって，絵が生まれます。子どもはまず驚いたことを絵に表してみようとします。そして，表現を通じて人に伝えることができる喜びを獲得するのです。その過程において，「知識及び技能」を基に，思い付いたり考えたりする「思考力，判断力，表現力等」を働かせ，その資質・能力を更新し育成しているのです。

この根底にあるのは「つくりだす喜び」です。小学校の図画工作の目標の（3）に「つくりだす喜びを味わうこと」が掲げられています。「つくりだす」は，創造です。「創造」に伴う「喜び」を得ることは，創造的な人間形成を図ることになるのです。

新しい価値をつくりだす創造性の育成は，新たな文化を形成します。

[3] 同左
*）宮坂元裕「造形教育という考え方」日本文教出版　2006
*）宮坂元裕「図画工作という考え方」黎明書房　2016

5 戦後の幼児教育と造形教育　－歴史的な捉え－



POINT

●戦後の幼児教育

昭和22年(1947)に「教育基本法」と「児童福祉法」が定められました。幼稚園は「学校教育法」に定められる文部省管轄となりました。保育所は「児童福祉法」による厚生省管轄となりました。昭和23年(1948)には，倉橋惣三，坂本彦太郎らが「保育要領～幼児教育の手引き」を発刊しました。ここでの保育内容は「自由遊び」を中心にした「見学，リズム，休息，自由遊び，音楽，お話，絵画，製作，自由観察，ごっこ遊び，健康保育，年中行事」の12項目です。造形表現の領域は，絵をかいたり，つくったりという「絵画，製作」が主な活動といえます。その後，文部省は昭和31年(1956)に「保育要領」を大幅に改訂し，「幼稚園教育要領」として保育内容を「健康・社会・自然・言語・音楽リズム・絵画製作」の6領域にまとめました。平成元年(1989)には「健康・人間関係・環境・言葉・表現」の5領域に改められ現在も継続しています。

●戦後の造形教育

・創造美育協会

昭和27年(1952)に久保貞次郎，北川民次らによって設立されました。大正期の山本鼎(かなえ)の自由画教育運動の理念を継承し，主な運動の方針は「児童の個性の伸長」「抑圧からの解放」でした。児童画の指導だけにとどまらず，教師の意識改革にも寄与しました。

・新しい絵の会

昭和27年(1952)に，当時の「生活綴り方教育」に影響を受けて設立されました。身の回りの生活や社会を見つめ直し，そこから絵のテーマや対象を見付け表現する活動を展開しました。この認識主義の思想は，写生など幼児の造形表現にも影響を与えました。

・造形教育センター

昭和30年(1955)にドイツのバウハウスの色や材料，造形要素などによるデザイン教育を基に設立されました。この構成教育は，現在の工作に表す活動や工芸などに大きく影響を及ぼしています。

■「大人の文化」と「子どもの文化」

造形教育は，芸術家を養成するためにあるのではありません。大切なのは，大人になっても，絵をかくことや鑑賞することなどを通して，楽しさや美しさを感じ，心豊かになることです。生活や社会にある形や色に触れ，美しさや面白さを感じ取る楽しさです。

キライ・苦手になる大きな理由の一つが，指導者が大人で，指導を受ける側が子どもだということです。

大人の見方・考え方と，子どもの見方・考え方が同じだと捉えてしまうと，「大人」の論理で子どもを従わせるという図式になります。「かきたい・つくりたい」という「子ども」の気持ちや自分なりの表現方法は打ち消されてしまいます。

その顕著な例として，大人は視覚優位で考えるのに対して，子どもは「身体性」を優位にしているということがあります。

「見えるものを見えるようにかきたい」というのは，大人の考え方です。それが子どもの絵と大人の絵の境界線です。子どもたちは自分なりの考えに基づいて，表現方法を工夫しながら大人になります。

我が国においては，これまでも「児童中心」の思想の下に，子どもの表現を顕在化させて，後押しする運動がありました。子どもの表現の発達を前提にして，子どもの表現方法を認め，伸ばす指導です。

特に，幼児教育の場合，相手が幼児であり，絶対的な大人(先生)が，無理解で独裁的な指導者であったとしたら，子どもの心に「絵は大人のいう通りかかなくてはならない」という気持ちを刻み込みます。受け身を助長し，従順さだけを求める指導になります。

子どもの「こうしたい」という思いが保障されなくてはならないのです。

＊）新関伸也「美術教育概論（改定版）第Ⅱ部　幼児造形表現」日本文教出版　2018

6 幼児教育の基本　－法的な捉え－

日本国憲法

子どもの権利条約

厚生労働省

社会福祉法：社会福祉事業の基本事項を定める

児童福祉法：国及び地方公共団体は育成する責任を負う（2条③）

児童福祉施設最低基準
（昭和 23 年）第 35 条
：養護と教育を一体的に行う

保育所保育指針
告示：厚生労働省大臣名で告示する

内閣府

認定こども園法：主務大臣が、その教育及び保育の内容を定める（10 条）

認定こども園教育・保育要領
告示：内閣総理大臣・文部科学省大臣・厚生労働省の連名で告示する

文部科学省

教育基本法：教育の目的・理念を定める

学校教育法：学校教育の配置基準や運営方法等を定める

学校教育施行規則：教育課程や保育内容の基準などを定める

幼稚園教育要領
告示：文部科学省大臣名で告示する

POINT

●文部科学省
文部科学省設置法第3条には「教育の振興および生涯学習の推進を中核とした豊かな人間性を備えた創造的な人材の育成，学術，スポーツおよび文化の振興並びに科学技術の総合的な振興を図るとともに，宗教に関する行政事務を適切に行うこと」を担う役割が明記されています。

●厚生労働省
厚生労働省設置法第3条には「国民生活の保障及び向上を図り，並びに経済の発展に寄与するため，社会福祉，社会保障及び公衆衛生の向上及び増進並びに労働条件その他の労働者の働く環境の整備及び職業の確保を図ること」を責務とすると明記されています。

●内閣府
内閣府設置法第3条では「内閣の重要政策に関する内閣の事務を助けること」を任務としています。省内で収まらない事案の制度設計に関わります。

●幼稚園教育要領
学校教育法施行規則第3章幼稚園第38条には「幼稚園の教育課程その他の保育内容については，（中略）教育課程その他の保育内容の基準として文部科学大臣が別に公示する幼稚園教育要領によるものとする。」とあり，教育課程や保育内容の基準に関することが定められています。

●保育所保育指針
認可保育所の保育の基本原則は，児童福祉施設最低基準第35条の規定を根拠に，保育所保育指針が定められています。公私立保育所は，これを踏まえ，保育の質の向上を目指すことになっています。

●認定こども園教育・保育要領
幼保連携型認定こども園は，幼稚園的機能と保育所的機能を合わせもつ単一の施設です。小学校就学前の子どもの教育・保育・子育て支援を一体的に提供すること，家庭及び地域の実態に即応した適切な教育及び保育の内容などの指針を示しています。

■みんなで子どもを育（はぐく）む

憲法第26条や教育基本法第1条などには，保護者や大人が子どもに対し保育や教育を行う義務や，子どもの教育に関する権利を規定した法令があります。

「子どもの権利条約」は世界の国々で批准され，第3条に「子の最善の利益のために行動しなければならないと定める」とあります。1990年に国際条約として発効され，日本は平成6年（1994）に批准しました。この条約の「子ども」は，原則として18歳未満を対象としています。ですから，日本では新生児から高校生までが対象です。「子どもの最善の利益」は，子どもの健やかな成長を保障する大人の務めを示しています。公共の「学校」は「教育」という名の下にこれに寄与することとなります。幼児教育においては，幼稚園（文部科学省），保育所（園）（厚生労働省），認定こども園（内閣府）が担い，それぞれが所管しています。

これは，大人が日本国中の子どもたちの「幸福」の保障に努め，実現を目指すことといえます。

幼児教育の目的や，目標及び内容の根拠となっているのが学校教育法です。その第22条に「幼稚園は，義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして，幼児を保育し，幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて，その心身の発達を助長することを目的とする」とあります。この目的の実現のために，幼稚園教育要領（保育所保育指針や認定こども園教育・保育要領）に，その教育（保育）の内容が示されています。生涯にわたる人格形成の基礎を育成するように，幼児の健やかな成長に資す良好な環境の整備を行い，その実現に努めることになります。現在，国が進めている「社会に開かれた教育課程」は，幼児教育も含む学校が，家庭や地域，社会と一緒に子どもを育てることを目指しています。

＊）文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館　2008
＊）文部科学省「幼稚園　教育要領（平成 29 年告示）」東山書房　2019
＊）アムネスティ・インターナショナル日本支部編「地球はひとつ　アートによる世界人権宣言」金の星社　1998

7 養護・保護と「教育」

POINT

●養護：幼い子どもの命を守る

保育所保育指針の「養護」には「子どもの生命の保持及び情緒の安定を図る」とあり，保育士は，その援助を行うものとしています。保育所における保育とは，養護と教育を一体的に行うことです。快適な生活，健康で安全，生理的欲求が十分満たされること及び健康増進が図られることが求められます。

健康状態や発達状態の的確な把握，家庭との連携，清潔な環境，発達過程に応じた適度な運動など，適切な援助や応答的な関わりが必要となります。

●教育：子どもの健やかな成長を援助する

保育所保育指針では，保育における「教育」を，「子どもが健やかに成長し，その活動がより豊かに展開されるための発達の援助」としています。

明文化されたねらいや内容は「教育」の側面からのものですが，実際の保育においては，養護と教育が一体的に展開されていることに十分留意することも，示されています。

●幼児教育の礎（いしずえ）「倉橋惣三」

幼児教育には，いろいろなイメージがあります。早期教育のような，上位の教育をいかに早く習得させる指導やしつけ指導を中心とするものもあります。これら大人中心の考え方に対して警鐘を鳴らしていたのが，大正6年（1931）に東京女子高等師範学校（現在のお茶の水女子大学）の附属幼稚園の園長になった倉橋惣三です。

倉橋は，「児童中心主義」を貫き，幼児の遊びを大切にする保育方法（誘導保育など）を実践しました。幼児の遊びは生活そのものであり，子どもたちが遊んでいる野原に，その上からそっと屋根を設けたところが「幼稚園」であると，その理想形を表現しています。これらは現在の幼稚園教育要領の「環境による教育」に引き継がれています。

幼児が生活しながら，自分の資質・能力を発揮して自己実現できる環境（設備や支援）が，幼児教育の源流にあるのです。

■「保育」の意味

今，子どもがいたずらをしています。倉橋惣三は「その一生懸命さに引きつけられて，止めるのを忘れている。実際的には直ぐに止めなければ困る。教育的には素（もと）より叱らなければためにならぬ。（略）しかし，教育の前に，先ず子どもに引きつけられてこそ，子どもへ即（つ）くというものである。子どもにとってうれしい人とは，こういう先生をいうのであろう。側（はた）から見ていてもうれしい光景である。」と書いています[1]。

子どもの世界を温かなまなざしで見ている先生がいます。その根底には愛情があります。昭和22年（1947）の学校教育法の制定に関わった倉橋らは，「保護と教育」の重要性を唱え，小学校のような教科学習ではない幼稚園での教育を「保育」としました。指導する立場の大人が，子どもの世界を知り，「保育者の深い愛情」の下に教育がなされることを絶対原理としたのです。「保育」という言葉には幼児教育の心を見て取ることができます。

保育所保育指針は「養護」と「教育」を併せて「保育」としています。生命の安全・心の安定があって保育があるのです。

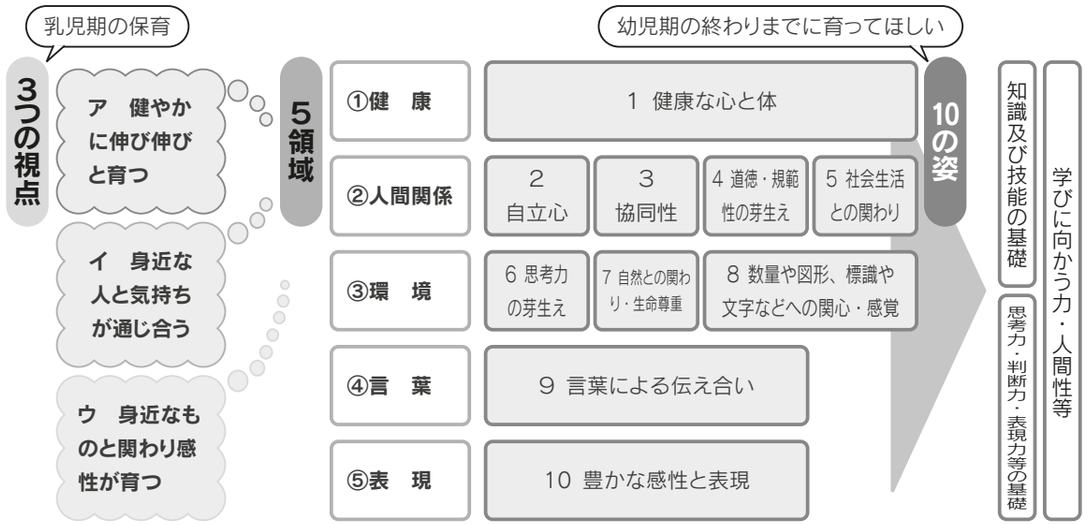
「育む（はぐくむ）」とは「羽でくるむ」つまり，親鳥がひなを羽で包んで敵から守るという意味があるといいます。子どもの安全・安心が大前提にあり，その基で指導があります。

平成29年（2017）の改訂では，幼稚園，保育所，幼保連携型認定こども園（以下，認定こども園）のそれぞれの特徴を生かしながらも，3〜5歳までの教育・保育の共通化・明確化が一層求められ，全国のどの地域においても，安全で安心な教育環境の下で，愛情あふれる豊かな指導を行うことが示されたといえます。

子どもにとって，適切な設備や支援があり，健やかに，そして心豊かに育つ環境が保障されなくてはならないということです。

[1] 倉橋惣三「育ての心」フレーベル館　2008 ←現在の発行ですがもともとの発行についてもかきますか？
＊）倉橋惣三「幼稚園真諦」フレーベル館　2008
＊）汐見稔幸「さあ，子どもたちの「未来」を話しませんか」小学館　2017

8 乳・幼児期から小・中・高等学校を通して育む



*）汐見 稔幸『さあ 子どもたちの「未来」を話しませんか』小学館　2017

POINT

●ホモ・ルーデンス[1]（homo ludens：遊戯人の意）

遊びが人間活動の本質であり，文化を生み出す根源だとする人間観があります。遊びは生活維持を求める生物学的活動を超え，生活に意味を与えるものであるとしています。

●「遊び」の分類[2]

- **アゴン（Agon）**：競争という形のとる一群の遊び（競争遊び）。野球などのスポーツ，将棋や囲碁など，ルールの下に行われる。
- **アレア（Alea）**：競馬やルーレットなど，遊戯者の力の及ばぬ偶然の遊び（賭け遊び）。
- **ミミクリ（Mimicry）**：「お店屋さんごっこ」など，見立てて行うイメージ遊びで，別の人格をよそおう演劇などの遊び（ごっこ遊び）。
- **イリンクス（Ilinx）**：回転や鉄棒，ブランコなどの眩暈（めまい）遊び。

この４つの分類は，子どもの遊びに限らず大人も興じる遊びの原型となっています。

●「子ども」という概念[3]

1700年代の中世ヨーロッパでは7～8歳以前の子どもは動物と同じ扱いだったといいます。7～8歳になれば徒弟修業に出され，大人と同等に扱われ，飲酒も恋愛も自由とされたといいます。この歳になると言語によるコミュニケーションが可能になると考えられたためです。

また，フランスの哲学者ジャン＝ジャック・ルソーは，子どもが「未熟な大人」とされ，労働も強いられ奴隷のように扱われていたのを，「子どもは子どもである」と初めて主張しました[4]。子どもは独自であり，なおかつ無垢な存在であると訴えたのです。

ルソーの目指した「消極的教育」は，教えようとするのではなく，子ども自らが興味をもち，考え行動するような子どもの意欲やよさを引き出すような，自然な状態で育てることを目指しました。挑戦し失敗しても，経験から学ぶことを大切にする教育でした。

[1] ヨハン・ホイジンガ著 高橋英夫訳「ホモ・ルーデンス」中公文庫　1973
[2] ロジェ・カイヨワ著　多田道太郎 塚崎幹夫訳「遊びと人間」（講談社学術文庫　1990
[3] フィリップ・アリエス著，杉山光信，杉山恵美子訳「〈子供〉の誕生」みすず書房　1980

■よく遊ぶことの意味

「よく遊ぶ」動物ほど学習能力は高いといいます。でも，「遊び」を定義するのは，なかなか難しいものです。山登りが「遊び」の人もいれば「仕事」の人もいます。佐伯胖（ゆたか）は，遊びを「その活動が何らかの別の目的を達成するための手段ではなく，それ自体が目的であるとしかいいようのない自発的な活動」[5]としています。子どもの遊びに，達成すべき目的はありません。何かを得るための手段でもありません。

遊びは「外界との接触」です。遊びの対象に関心があって，その世界で夢中になり，結果として知識や技能が伴って向上していくのです。遊びの中で学んでいるだけなのです。学びは「遊び心」を伴って成立しています。ですから，「遊び」には，夢中になっても，深刻にはならないという特徴があります。

しかし，学校に入ると「勉強」時代になり，「学び」と「遊び」の分離が始まります。さらに「学校」は，「能力」という「ものさし」を出現させ，その能力を鍛える訓練所となります。競争社会を生み出しているのは，私たちの無意識下にあるのです。学校は，教科学習や受験対策など対象を極端に絞り込むことで，その「専門性」を確保してきたともいえます。

幼児にとって，見知らぬ世界が広がっていて，その体験が学びとして身に付いているとしたら，大人の目線で学びを考えるのではなく，子どもの目線で学びの対象や内実を捉えることが大切です。

子どもが園庭でダンゴムシを見付け，つまみ上げて手のひらで回し始めました。さて，子どもの目線で考えると何を学んでいますか。見た目は同じでも「見る目」が変わると，先生の資質・能力にも変化が起こります。

[4] ジャン＝ジャック・ルソー著，今野 一雄訳「エミール」岩波文庫　1962
[5] 佐伯胖「「学び」を問い続けて」「「遊び」＝「学習」の本源的様態」小学館　2003
*）佐伯胖「「わかり方」の探究　－思索と行動の原点」「「遊ぶ」ということの意味」小学館　2004

9 育ってほしい10の姿

○ 5歳児修了時までに育ってほしい具体的な姿を明確にし、幼児教育の学びの成果が小学校と共有されるよう工夫・改善する。

＊中央教育審議会『幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』2016, p 504

POINT

●日本の幼稚園

日本における幼稚園は，明治9年(1876)に東京女子師範学校(現：お茶の水女子大学)の附属園として設立されました。ドイツのフリードリヒ・フレーベルの教育に倣い，「遊戯」「手技」「唱歌」で構成されていました。フレーベルが考案した遊具「恩物」の操作の習得などが，幼稚園保母養成の重要な教科目として定められていました。

明治32年(1899)の「幼稚園保育及設備規程」(文部省令)には，幼稚園は満3歳から小学校に就学するまでの幼児を保育する／保育時間は1日5時間以内／保育士1人の保育する幼児は40人以内／一幼稚園の園児は100人以内／幼児を保育するには心身を健全発達させ，善良な習慣を付け，家庭教育を補うようにする／保育項目は「遊戯・唱歌・談話・手技」とする／建物は平屋造りとし，保育室，遊戯室，職員室，その他必要なる諸室を備え，保育室は幼児4人について1坪より小さくないことなどが示されていました。

●日本の保育所(園)

明治37年(1904)に保育所が誕生しました。幼稚園が家庭教育の補助的な役割で誕生したのに対し，保育所は教育的に貧しい子どもを救済する役割を担って誕生しました。さらに戦争による女性の労働力の確保とも相まって，全国に広がりました。労働運動とも関係が深く，子どもは「社会の子」として，社会性の発達を中心にした教育を行いました。

城戸幡太郎は，「社会中心主義」を提唱し集団生活を通して社会協力する力を身に付ける「集団保育」を実践しました。この教育理論は，子どもの利己的で自己中心的な行いを克服させ社会性を身に付けることを目的とした指導色の強いものであったといえます。

現代は，女性の社会進出による共働きの増加などに起因する保育所の不足，社会の要請による認定こども園の新設など，幼児教育も時代とともに変化しています。

＊）横須賀薫監修，千葉亨著「教育の歴史」河出書房新社　2008

■「育ってほしい」ことの意味

今回の幼稚園教育要領改訂で，「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」が示されました。

10の姿は，これまでの5領域から抽出したもので，新たに卒園時までに達成すべき目標として設定されたものではありません。これらの文末は「するようになる」となっていて，「できるようにする」ではありません。

また，全てを均一に育てるということでもありません。子どもは一人一人発達の仕方や速度も違うことをしっかり理解した上で指導に当たることです。子どもは，それぞれの状況で資質・能力を発揮し，これまでの資質・能力を更新して，新たな資質・能力を身に付けていきます。

これらは，今回の学習指導要領改訂の「三つの柱」につながるものです。幼児教育で育成する資質・能力は「知識及び技能の基礎」「思考力，判断力，表現力等の基礎」「学びに向かう力，人間性等」で括られています。

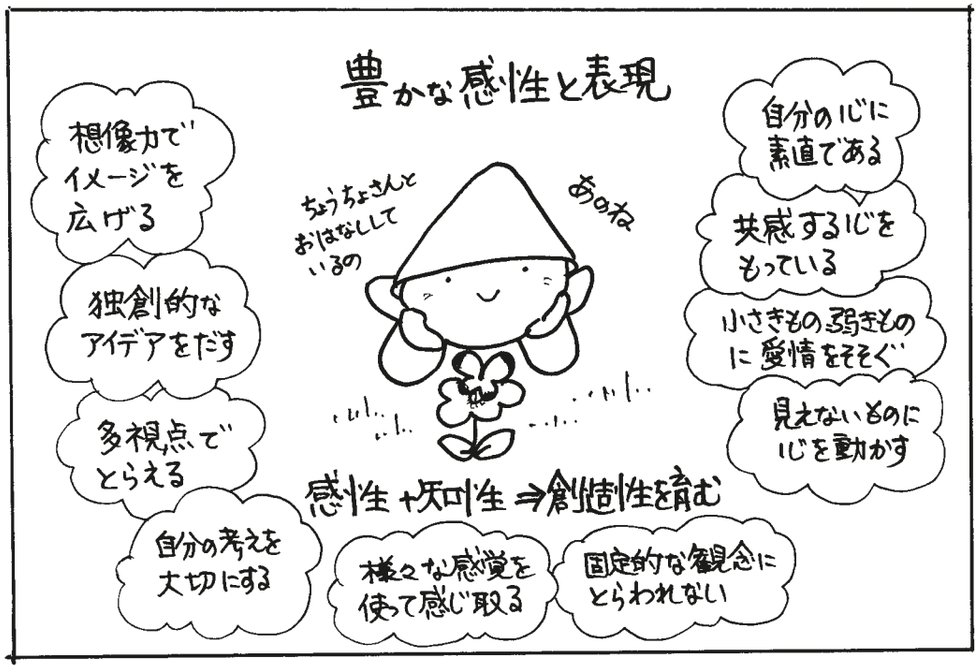
子どもの育ちは連続しています。ですから，小学校で学ぶことを前倒しして行うものでもありません。興味や関心のあるものに対する子どもの自発的な取り組みを支援するのが，幼児教育なのです。

「啐啄同時(そったくどうじ)」という言葉があります。これは，親鳥が，卵の中からひな鳥が殻を破ろうとする音(啐)を聞くと，外側から殻を突いて(啄)誕生を助けることが同時に起こるということで，子どもを育む上での指導のタイミングを示したものです。

学ぼうとする気持ちと，それに応えようとする先生の関係が大切です。そうすると学ぼうとする環境を整えることが，先生の資質・能力の一つといえます。

＊）レイチェル・カーソン著，上遠恵子訳「センス・オブ・ワンダー」新潮社　1996
＊）汐見稔幸「さあ，子どもたちの「未来」を話しませんか」小学館　2017
＊）佐伯胖「幼児教育へのいざない」東京大学出版　2001

10 豊かな感性を育む



POINT

●豊かな感性と表現

平成29年(2017)告示の幼稚園教育要領の育ってほしい姿の(10)「豊かな感性と表現」は，「心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で，様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き，感じたことや考えたことを自分で表現したり，友達同士で表現する過程を楽しんだりし，表現する喜びを味わい，意欲をもつようになる」と示されています。

感性とは，心に深く感じることであり，知性や意志と区別されます。感覚・感情・欲求・情緒などに深く関わる心の働きのことです。小学校図画工作の学習指導要領では，「様々な対象や事象を心に感じ取る働きであるとともに，知性と一体化して創造性を育む重要なもの」[1]としています。感性は，子どもを取り巻く環境の全てを通して育まれています。小さきもの，弱きもの，移ろい，はかないものに心寄せる感覚です。子どもは，対象の内側に入り込んで共感できる豊かな能力の，「感性」を備えています。

●表現領域

幼稚園教育要領の表現領域には「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して，豊かな感性や表現する力を養い，創造性を豊かにする。」という目標が示されています。その「ねらい」として「(1)いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。(2)感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。(3)生活の中でイメージを豊かにし，様々な表現を楽しむ。」が掲げられています。「育ってほしい姿」と領域を重ねてみて，どのような子どもの姿が目に浮かびますか。

「楽しさ」を享受している姿から，「したいことをする：自発・主体性の発揮」「熱中する：全力の活動」「できた！：能力の伸長」「わかった！：知識の獲得」「つくりだす：創造性の発揮」「よいことをする・役に立つ：善行・有用性」「認められる：人格の承認」「共感する：共感性の涵養」「よいものに出会う：出会いと認識」「好きな人とともにある：愛・友情」などの子どもの姿が浮かびます[2]。

[1] 文部科学省「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　図画工作編」日本文教出版　2018
[2] 岸本勇雄「幼児教育課程総論」同人書院　1990

■「遊び」は学び

「たかが子ども，されど子ども」という背景には，大人の論理が見え隠れしています。豊かな感性は，「子どもは未熟なもの」という考えで接すると，見えないままです。子どもが「今，何を学んでいるか」という思いで子どもを見つめようとすると，そこに発見があります。

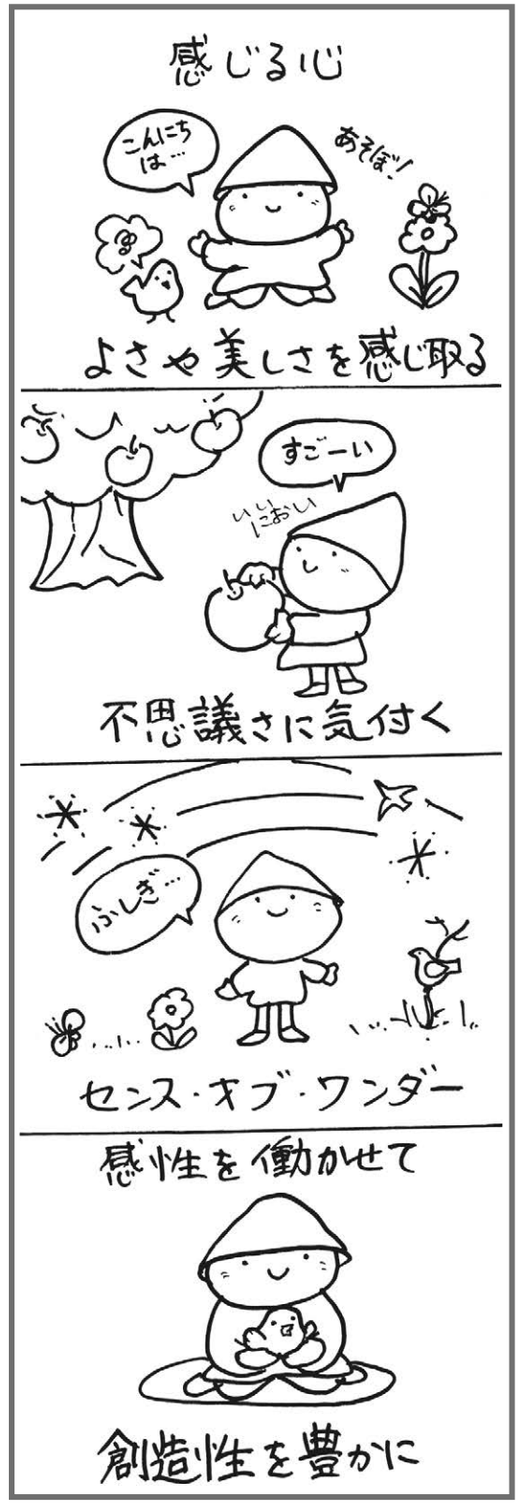
見た目は同じでも，見る目が変わると「子どもの見方」が変わります。そのカギは「感性」です。

幼稚園教育要領の表現領域には，子どもに内在している能力として「豊かな感性」が位置付いています。また，平成29年(2017)告示の学習指導要領には図画工作や美術に限らず，多くの教科等で「感性を働かせる」の文言が散見されます。

人間に内在する感性は，様々な出来事や経験を踏まえてさらに豊かになります。ですから，平成20年(2008)の図画工作の学習指導要領の教科の目標には「感性を働かせ」が，中学校美術には「感性を豊かにし」が加わりました。幼・保，小そして中学校の連携・接続がうたわれ，それぞれの造形活動を通した資質・能力の育成が図られています。

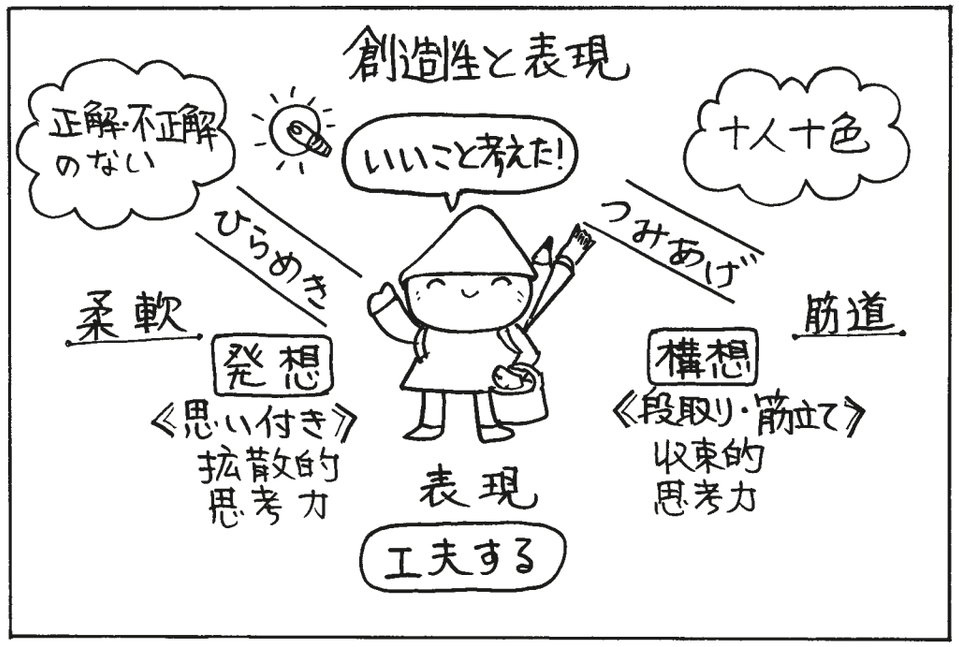
平成28年(2016)12月に出された中央教育審議会の答申には，「幼児教育においては，幼児の自発的な活動である遊びや生活の中で，感性を働かせてよさや美しさを感じ取ったり，不思議さに気付いたり，できるようになったことなどを使いながら，試したり，いろいろな方法を工夫したりすることなどを通じて育むことが重要である」[3]と示されています。子どもは遊びを通して「感性」を働かせ，自分を育んでいます。

「感性」は人間に備わる「生きる力」の源泉なのです。



[3] 文部科学省「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の 学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」 2016
＊）レイチェル・カーソン著，上遠 恵子訳「センス・オブ・ワンダー」新潮社　1996

11 創造性を育む



POINT

●造形表現と造形活動

「造形」には，「形をつくりだす」という「過程」を含めた意味が込められています[1]。経験することの時間的要素に意味があります。試行錯誤や洞察など，現代の学校教育制度が切り捨てつつある大切なものを含んでいます。ものをつくりだすことを通して，理想と自由を収斂する技術の習得があります。

幼児期の美術教育は「造形表現」の呼称で使われることが多くなっています。図画工作の表現領域は「造形活動」という言葉を使用しています。中学校や高等学校美術は「表現活動」を使っています。この場合でも，過程での行為は「造形活動」であり，「造形表現活動」ともいえます[2]。

つまり，「造形教育」（子どもの心の中にある美を育てる）から「美術教育」（社会的文脈の中の美を取り入れる）へのゆるやかな移行です。幼児の「造形表現」は，大人の「美」とは異なることに考慮して指導に当たることが大切です。

●自己実現の創造性

恩田彰は，創造性を「創造力」と「創造的人格」に大別し，さらに創造力を「創造的思考力」と「創造的技能」に分けています[3]。創造的思考は，想像と思考の両方の機能を併せもっており，想像力によって新しいイメージを生み出し（＝発想），それを思考力によって具体化する（＝構想）といいます。また，拡散的思考（試行の方向が多種多様に変わる思考＝発想）と，収束的思考（ある一定の方向に導かれていく思考＝構想）が統合されたものとしています。ですから発想は「思い付き」といい，構想は「段取りや筋立て」などといえます。

アイデアがたくさん生まれることと，つくりたいイメージを実現可能にしていこうとする両方の思考があって，自分なりの意味や価値がつくりだされていくのです。

幼稚園や保育所の砂場や園庭には，子どもの「発想と構想」が満ちあふれているのです。

[1] 宮坂元裕「造形教育という考え方」日本文教出版　2006
[2] 大橋功他「美術教育概論（新訂版）」日本文教出版　2018
[3] 恩田彰「創造性開発の研究」恒星社厚生閣　1980

■砂場と想像力

ロバート・フルガムは「想像力とは，つまり，ものの形を思い浮かべる感性のことだ。子どもにとって，これは幸福の足し算である。」といいます[4]。

子どもたちは，クレヨンで想像したことを表現します。そこに「想像力」と「表現力」が働いて幸福な絵ができあがるということです。

絵だけではありません。子どもたちは砂場で遊んでいます。毎日毎日，飽きることなく遊んでいます。園庭の外から眺めている人には同じことを繰り返しているように見えることでしょう。「いいこと考えた!」と砂山を崩したり，また盛り上げたりしながら，自分の考えたことを実現しようとします。この「いいこと考えた」は，閃光が舞い降りた「ひらめき」のようなイメージのことです。これを「発想」とよびます。一方，階段を一歩一歩の上るような思考を「構想」とよびます。私たちはこの一連の行為を「工夫する」という言葉で表すことがあります。

「工夫」は，日々様々なところで見られます。しかし，受け身で言われたことをするだけの活動には多く見られません。自分から進んで／粘り強く／話し合う中で／試すことができる／集中して考える時間があるなどの様々な要素が重なり合って生まれることが多いのです。幼稚園の砂場のような状況には，これらがいっぱい詰まっているといえるでしょう。

小説「星の王子様」の冒頭で，大人たちには「ぼうし」にしか見えない絵から，子どもたちは想像をふくらませて「象を丸呑みしたうわばみ（大蛇）」に見えると答えます[5]。想像力は，大人や子どもに関係なく，誰にでも備わっている能力です。

[4] ロバート・フルガム著，池央耿訳「人生に必要な知恵は　すべて幼稚園の砂場で学んだ」河出書房新社　1990
[5] サン・テグジュペリ著，内藤濯訳「星の王子さま」岩波書店　1953
＊）内田伸子「よくわかる乳幼児心理学」ミネルヴァ書房　2008
＊）佐藤公治「幼児教育　知の探究５　保育の中の発達の姿」萌文書林　2008

12 工夫する心を育む

POINT

●「手」は第二の脳

脳を鍛えるには，手を使うことです。指先をコントロールする巧緻性は，目と脳と，指先の諸感覚を働かせて育まれるのです。スマートフォンなどでは，一定の感覚の機能しか使われません。検索して調べたことも記憶として長く残ることはありません。一方でノートに文字や絵を書くことなどは，動作によって「かいた記憶」として残ります。

学校教育を通して「かくこと」(メモをする，ノートをとる，絵や図をかくなど)の意味を経験してきました。指導する立場の人も，子どもの行動やよさをメモして書き残しておくことは，よさを見取る評価(ドキュメンテーション)につながります。

知識は，座学でも身に付きますが，手触りや手加減など触ったり，用具を駆使してつくったりすることでしか身に付けることができない技能などがあります。子どもが空き箱でつくったり，どろ団子をつくったりしているとき，自らの身体の資質・能力が発揮されているのです。

●手で考え，手で工夫する

フランス語のブリコラージュ（Bricolage)は，「寄せ集めて自分でつくる」という意味の言葉で，理論や計画に従ってつくる「設計」とは対照的なものです。その場で手に入るものを寄せ集め，それらを部品として何がつくれるか試行錯誤しながら，最終的に新しいものをつくることをいいます。これには創造性と機智が必要とされます。雑多なものや情報などを集めて組み合わせ，新たな価値を生み出す創造的な行為です。

創造性や機智は，「困った…どうしたら」「もっと…するには」などといったときに，材料などを手にして考えるときに大きく働く能力です。失敗もありますが，失敗から学ぶことも多くあります。子どもたちは，行動しながら考えたり試したりしながら学んでいるのです。ですから「失敗」は「挑戦」の証です。創造性は，創造的な人間の育成に欠かすことのできない能力です。

■不便は身に付く力の宝庫

「不便」と聞くと，マイナスのイメージが付きまといます。忙しい毎日を暮らしていると，少しでも効率的に合理的にと，「便利なもの」へ移行していきます。

手をかざすと適量の温水が出てくる手洗いなどもそうです。でも，少し前までは蛇口の栓ををひねるという動作がありました。

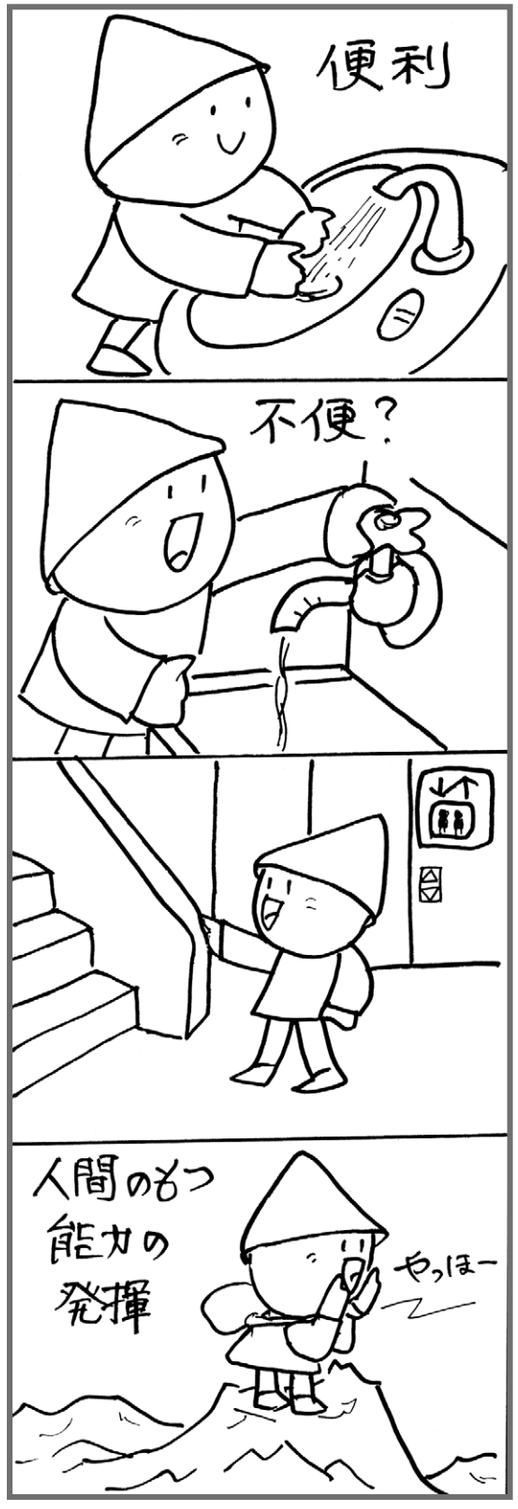
ある幼稚園で，園舎をつくるときに，戸外の蛇口を，昔ながらの栓をひねるものにしたそうです。必要な水の量や流れを自分で調整する力こそ，「自分」と対象との関係を知ることにつながるというのです。

例えば鉛筆を小刀で削ることは，今もこれからも必要ないかもしれません。それは現象を見ているだけのことです。自分の手の感覚で小刀をコントロールするといった，人間に備わっている感覚の陶冶にこそ意味あることといえます。

「不便だ」と感じて工夫するところに，知識や技能，そして創造性が働きます。全て揃っていて，そのまま受け入れるだけの生活は，暮らしとしての便利さはありますが，受け身の構えをつくってしまいます。能動的に自分の力を発揮することで資質・能力は育成されるのです。

川上浩司が唱える「不便益」[1]の例です。ある介護施設では身体能力を低下させないため，あえて床に段差を設けているそうです。バリアフリーならぬ「バリアアリー」とよばれています。ちょっとくらい不便な方が，人間のもっている能力が一層発揮されるということです。

幼稚園や学校では，安全や清潔が大前提ですが，学習の場でもあります。また，集団で過ごす場所でもあります。家庭生活のように個人の快適性だけを追い求めることはできません。不便をどのように乗り越えるか，他力も借りながら自力を一層鍛える場でもあるのです。



[1] 川上浩司「不便益のススメ　新しいデザインを求めて」岩波ジュニア新書 891　2019

＊）鬼丸吉弘「創造的な人間形成のために　子どもの絵を考える」勁草書房　1996
＊）中村雄三郎「臨床の知とは何か」岩波新書 203　岩波書店　1992

13 「資質・能力」の三つの柱

資質・能力の三つの柱に沿った，幼児教育において育成すべき資質・能力の整理イメージ（たたき台）

平成 28 年 3 月 30 日
教育課程部会
幼児教育部会
資料 4

小学校以上

個別の知識や技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力，人間性等
（何を知っているか，何ができるか）	（知っていること・できることをどう使うか）	情意，態度等に関わるもの（どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか）

※下に示す資質・能力は例示であり，総合的な指導を通じて育成される。

幼児教育

個別の知識や技能の基礎
（学びや生活の中で，豊かな体験を通じて，何を感じたり，何に気付いたり，何がわかったり，何ができるようになるのか）

・基本的な生活習慣の獲得
・様々な気付き，発見の喜び
・規則性，法則性，関連性等の発見
・日常生活に必要な言葉の理解
・身体的技能や芸術表現のための基礎的な技能の獲得　など

思考力・判断力・表現力等の基礎
（遊びや生活の中で，気付いたこと，できるようになったことなども使いながら，どう考えたり，試したり，工夫したり，表現したりするか）

・試行錯誤，工夫
・予想，予測，比較，分類，確認
・他の用事の考えなどに触れ，新しい考えを生み出す喜びや楽しさ
・言葉による表現，伝え合い
・振り返り，次への見通し

・思いやり　・安定した情緒　・自信　・自分なりの表現　など
・相手の気持ちの受容　・好奇心，探究心
・話合い，目的の共有，協力
・色・形・音等の美しさや面白さに対する感覚
・自然現象や社会現象への関心　など

学びに向かう力，人間性等
（心情，意欲，態度が育つ中で，いかによりよい生活を営むか）

▲中央教育審議会「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」 2016

POINT

●幼児の知的な力

「知識及び技能の基礎」：幼児が遊びや生活の中で，豊かな体験を通じて，何かを感じたり，何かに気付いたり，分かったり，何かができるようになっていくこと[1]です。

出来事や興味のある対象と触れ合う体験的な学びが，「知識」や「技能」につながることを理解することです。「知識や技能を習得させる」という「教える」ことを求めているのではありません。様々な気付き，発見の喜び，規則性や関係性の発見など，自発性に基づいた行為による気付きや体験が大切です。

「思考力，判断力，表現力等の基礎」：幼児が遊びや生活の中で，気付いたこと，できるようになったことなどを使いながら，試したり工夫したりしながら考え，判断し表現するようになっていくこと[2]です。

思考力や判断力，表現力などは，知識や技能と一体的に働く能力です。工夫や予測，比較，分類，確認，他者の考えなどから，新しい考えを生み出す喜びを感じ取ることが大切です。

●幼児の情緒的な力

「学びに向かう力，人間性等」：幼児の心情，意欲，態度が育つ中で，どのように社会や世界と関わり，いかによりよい生活を営むかといった資質・能力のこと[3]です。

この資質・能力は，左に述べた「知的な力」を支える力です。興味や関心，意欲はもとより，粘り強く取り組む意志，他者への思いやりなどといった情緒的な力といえます。子どもたちは，安定した情緒を基に，好奇心や探究心，形や色等の感性や感覚などを働かせて学びます。

これら三つの柱は，子どもの遊びや生活の中で一体的に働いています。これらは，子どもの活動の過程で発揮されるものです。また，三つの柱や「5つの領域」，「育ってほしい10の姿」などは，活動の枠組みとして先生の間で共有するものです。決して，子どもの活動を制約するものではありません。

[1] 樋口一成編「幼児造形の基礎　乳幼児の造形表現と造形教材」萌文書林　2018
[2] 同上
[3] 同上

■自分をつくりだすということ……

「自分でできることがうれしい」と感じた子どもは積極的に行動を起こします。「私がします」には主体性が，「自分でします」には責任感が感じられます。「自分」を取り巻いている環境や状況の中から，「自分」が際立ってきます。それは成長の姿と見ることができます。しかし，佐々木正美は「自立する」ことは，何でも一人でできるようになることではなく，「他人との調和の中で主体性を発揮して生きることである」といいます[4]。

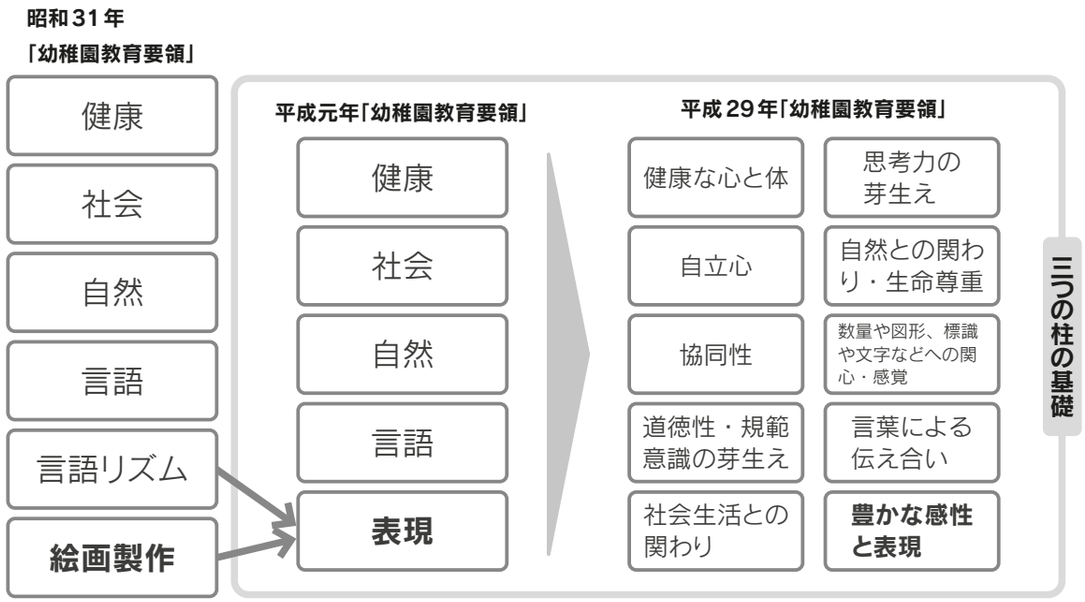
社会で生きるためのスキルは，他人に依存する「依存と共存」を繰り返しながら自分の人格を形成し，「自立する」ところにあります。社会で生きるために，他人と接して，心地よい関係が築くことができるように，日々学んでいるともいえます。子どもたちの言葉では，「楽しい」であり，「うれしい」です。この「楽しい」や「うれしい」という快の感情は，様々な場面で生成されます。「できなかったことができるようになった」「友だちから優しい声を掛けてもらった」「先生にほめられた」などです。どれも自己肯定感や自尊感情にプラスに働くことです。特に，幼児教育や家庭教育では，深い愛情の下での情緒の安定と，情操の涵養が全ての基盤になるといっても過言ではありません。情緒の安定の上に，子どもは自分自身の資質・能力を発揮して活動するのです。そして，自分をつくりだしているのです。

三つの柱は，人間教育として，生涯にわたって必要な資質・能力として明文化されています。しかし，実態を端的に表すことはできません。目に見えぬその人の人柄というものがあります。人柄は，多くの人との関わりから生まれ，その人らしさとでもいうべき個性であり，人間性なのです。

[4] 佐々木正美「子どもの心の育てかた」河出書房新社　2016

14 豊かな心を育む

■ 6領域から5領域　そして「育ってほしい10の姿」



POINT

●幼稚園教育要領の変遷の要点

昭和31年(1956)に保育要領から幼稚園教育要領に改められ「領域」が設定されました。保育内容と小学校との一貫性をもたせ「健康，社会，自然，言語，音楽リズム，絵画製作」の6領域としました。平成元年(1989)の告示では，具体的な教育目標を示した「ねらい」と，それを達成するための「内容」に区別されました。領域は「健康，人間関係，環境，言葉，表現」の5つになりました。平成10年(1998)の告示では，これまでの5領域を継承し，「生きる力」を育む観点で改訂が進められました。遊びを中心とした生活，計画的な環境の構成なども明確になりました。平成20年(2008)の告示では，小学校との円滑な接続や社会の要請などにも対応した子育て支援，教育時間終了後の預かり保育なども位置付きました。平成29年(2017)告示の改訂では，三つの柱から導かれた資質・能力を一体的に育むことや，幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を明確にしました。

●領域について

①心身の健康に関する領域：「健康」
②人との関わりに関する領域：「人間関係」
③身近な環境との関わりに関する領域：「環境」
④言葉の獲得に関する領域：「言葉」
⑤感性と表現に関する領域：「表現」

これら「領域」は，学問的な背景を基にした，「何をどのように指導するか」の「何を」，つまり内容に当たります。教員養成校では，これらを基にカリキュラムを編成しますから，専門的な事柄を効率的に学ぶことができます。しかし，子どもは「領域」を通して学ぶのではなく，「遊び」を通して学ぶのです。子どもを見つめる先生のまなざしは，大学の先生の見方と同じであってはいけません。目の前の子どもの特性を捉え，発達や生育歴などにも配慮して，子どもの成長を促す「支援者」として寄り添う指導が大切なのです。教育的実践者とは，忠実忠実(まめまめ)しく働く[1]先生のことを指します。

[1] 倉橋惣三「育ての心」フレーベル館　2008

■人生において大切なもの

私たちの身の回りには，「学び」に関するいろいろな言葉があります。「勉強」は「勉めて強いる」という「がんばって」嫌なことも我慢して練習するなどのイメージがあります。「学習」は，学習者の視点で捉えたものです。ですから，教える立場の指導者がいなくても，自ら学ぶことのできる「生涯学習」は「学習」です。

「学び」は，子どもの側からの「学びたい，学ぼう」という自発性に基づく行為のことです[2]。子どもにとって，遊びが学びです。それは自発的であり，何かの代償を求めるものでもありません。子どもたちは，人生の全てといえるほどの資質・能力を「遊び」という「学び」から獲得しているのです。幼稚園・保育所時代は「遊び」の連続です。そこで営まれることは，「原風景」になり，人生の基礎になっているのです。また，家庭も同じです。学校の行き帰りでの出来事が，教室で学んだことよりも，今に生きているのではないでしょうか。

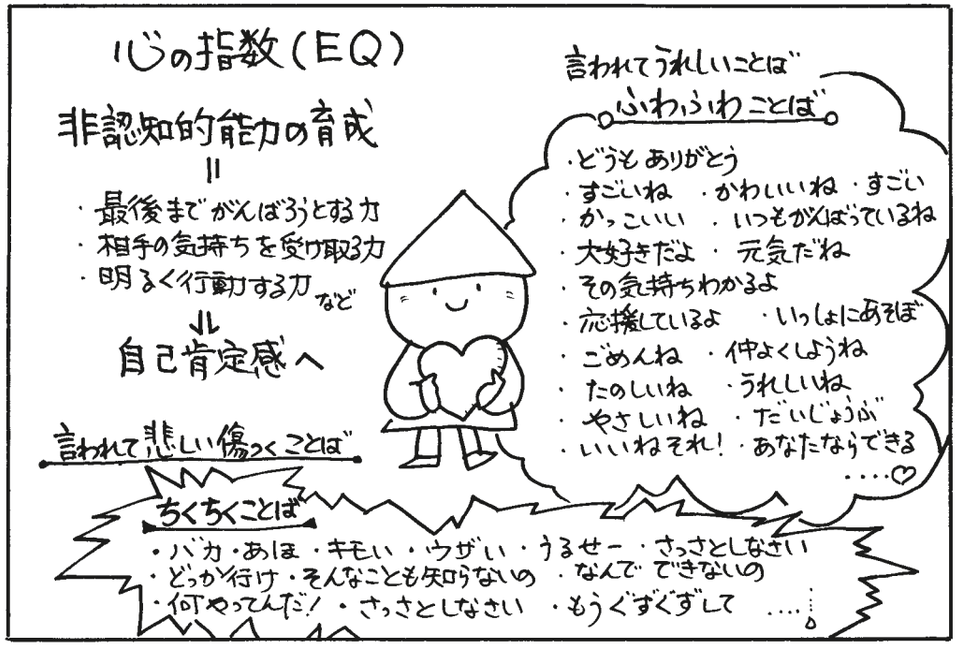
佐々木正美は「小学校の休み時間と放課後は，人生で一番大切なものを学ぶ貴重な時間」[3]だといいます。学習時間での「知的な学び」よりも，休み時間や放課後の友だちとの出来事や語らいに多くの学ぶべきものがあるということです。

「今」を学びとして捉えたら，私たちが友人と語らうことも，学びの対象になります。幼児期の子どもに向けるまなざしも同じです。豊かな関わりが，学びの質を高めることを自覚することです。

学校は，受動的に教えを乞う場所ではありません。自らの問いを追求し学びを重ねる場所です。先生としての専門性を支えているのは，これまでの友人との関わりから生まれた信頼感や思いやりなど，情意面での非認知的な能力によるものです。

[2] 佐伯胖「「学び」を問い続けて」「「遊び」＝「学習」の本源的様態」小学館　2003
[3] 佐々木正美「子どもの心の育てかた」河出書房新社　2016
＊）古橋和夫編「子どもの教育の原理　保育の明日をひらくために」 2011

15 非認知的能力を育む



POINT

●「共感」

理解することと共感には違いがあります。「理解」は，明らかでなかったことが判明するような知的な範囲でのことに対して，「共感」は感覚や感情も含む「分かり合える」状態を指します。そして，「共感」の対象の多くは他者（人間）です[1]。

子どもをあるがままに受け入れる「共感的な理解」とともに，積極的で肯定的な支援は，子どもとの実際の指導に生きていきます。

佐伯胖は，「共感」は「他」（者でも物でも事でも）との関係を見い出し，関係の中で生きることだといいます[2]。知ることや行為する根底に「共感」があり，学ぶ意欲が生み出されたり，他によって引き出されたりするといいます。ですから，「発達」は関係の中で生起するもので，「発達する」というのは関係性の広がりを意味します。そのため発達を研究するには，個人の能力のみに焦点化するのではなく，常に関係の中で立ち上がるものとして捉えることが大切であるといいます。

●将来に影響する幼児期の子育て

人生をよりよく生きるためには，認知的な能力だけでなく，心身の健康や根気強さ，注意深さ，意欲，自信といった情動的な性質の安定や，協同や共感といった社会的な性質を育成する，非認知的な能力が必要です。これらは乳幼児期から家庭内で築かれることが多いものです。子どもへの語り掛けが多く，テレビの視聴より絵本などの読み聞かせが多い家庭環境は，子どもの認知的な能力だけでなく非認知的な能力を向上させるといいます。

アメリカの経済学者ヘックマンは，幼児期の子育てによる非認知的な能力の育成が，将来の経済面や健康面での恩恵を与えるというのです[3]。所得の低い家庭から幼児を選び無償で教育を施すと，そうでない場合と比べて生活保護を受給する割合が低くなるなど，財政面でもよい結果をもたらすといいます。幼児教育には，国の経済的負担を抑える重要な役割もあるというのです。

[1] 五十嵐透子「自分を見つめるカウンセリング・マインド　ヘルスケア・ワークの基本と展開」医歯薬出版　2003
[2] 佐伯胖「共感　育ち合う保育のなかで」ミネルヴァ書房　2007
[3] ジェームズ・J・ヘックマン著，古草秀子訳「幼児教育の経済学」東洋経済新報社　2015

■心の指数と支援

私たちは，我慢したり，友だちと仲よくするために必要な「共感」する気持ちなどを，どこで培ってきたのでしょうか。心の能力とも呼ばれる「EQ」（情動指数：認知的な知能指数IQに対する心の指数）とは，自分の感情を自己管理するとともに他人の感情を理解・共感する能力のことをいいます。

EQなどの非認知的な能力には，社会性に関すること，忍耐強さ，自己肯定感に通じる自信などがあります。難しいことを思い浮かべる必要はありません。砂場で子どもたちが遊んだり，時にはケンカをした後に仲直りしたりする能力です。これらは，もちろん家庭教育においても育ちますが，概ね同年齢が多く生活する幼稚園や保育所で，毎日培われているものです。

・最後までがんばろうとする力
・気持ちをコントロールする力
・人とコミュニケーションする力
・相手の気持ちを受け取る力
・明るく行動する力

などいろいろあります。

指導者として，一人一人の子どもの姿が浮かんでくるとしたら，その子どものよさを捉え育てているといえます。子どもの姿を「よさ」として捉えて行うのが支援です。

「今までできなかったことができるようになる」時には，様々な能力が起因しています。何ができるようになったのかという結果ではなく，次の何かに対して「できるようになる」と考えると，似たような問題や異なる事象に対する「できる準備ができた」というスタートになります。

「主体的に学習に取り組む態度」は，結果ではなく，次への準備としての「態度」が形成されたと考えると，子どもたちの行為の中に意味や価値を見出すことができます。

＊）樋野興夫「明日この世を去るとも　今日の花に水をあげなさい」幻冬舎　2015

16 保育士を育む

保育士等キャリアアップ研修

研修分野	
• 乳児保育	①
• 幼児教育	②
• 障害者保育	③
• 食育・アレルギー	④
• 保健衛生・安全対策	⑤
• 保護者支援・子育て支援	⑥
• 保育実践	⑦
• マネジメント	⑧

1分野につき15時間以上の研修

「職務分野別リーダー」
①②③④⑤⑥のうち担当する分野の**1つ**の研修を受講する。概ね保育歴**3年以上**。担当の名称は園で変更可能。

「専門リーダー」
①②③④⑤⑥⑦⑧のうち**4つ以上**の分野の研修を受講する。「職務分野別リーダー」の経験済。概ね保育歴**7年以上**

「副主任保育士」
⑧のマネジメントと3つ以上の分野の研修を受講する。「職務分野別リーダー」の経験済。概ね保育歴**7年以上**

＜平成29年4月1日付け都道府県各指定都市民生主管部(局)長宛て厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課長からの通知文書＞

参考図書：汐見稔幸『さあ、子どもたちの「未来」を話しませんか』小学館,2017

POINT

●成長する先生

まず「せんせい」という言葉の重みと意味を考えることです。それは「先生は子どもの人格形成に深く関わる」ということです。

子どもにとって何が大切か，その子どもの将来を見据えて何を育てるのかを，自分の指導を「省察」[1]して考え，「先生」としての資質・能力を磨く必要があります。子どもへの声掛け，安全・安心を守る姿勢や取り組みなどといった直接的な関わりがあります。また，年間指導計画を踏まえた，子どもの発達や実態に応じた指導などを，職場の先生とともに考え，指導力を高めることも必要です。一つの事例から，どうすることがよかったのか，それはなぜかなどを話し合える仲間が，とても大切です。

研修では，子どもの活動の様子を「動画」に記録して，映像に映し出された様子を基に子ども理解を深める「ムービー・リフレクション」[2]が有効です。

●どんな先生が理想？

アメリカの教育学者のウィリアム・ウォードは理想の先生を「平凡な教師は言って聞かせる／よい教師は説明する／優秀な教師はやってみせる／しかし最高の教師は子どもの心に火をつける」といいます。

「教えること」も，先生の大切な仕事です。しかし，将来に生きる子どもにとって必要な学びは，「学ぼう」とする意欲や意志をもつことです。そのために将来に生きて働く基礎的・基本的な事柄を身に付けることができるよう支援するのが先生の仕事です。

好奇心などは，感情の発露とともに探索行動に駆り立てる力をもっています。子どもの身の回りには不思議なこと，面白いと感じることなどがいろいろあります。子どもと一緒に「わくわくする」感覚を共有できる先生であることです。

[1] 藤岡完治，浅田匡，生田孝至「成長する教師　教師学への誘い」金子書房　1998
[2] 佐伯胖，刑部育子，苅宿俊文「ビデオによるリフレクション入門」東京大学出版会　2018

■親以上になりましょう

「後ろに立ってあげなさい」という新聞記事[1]に目が留まりました。育児をする娘に向けた母親の言葉です。些細なことにも声を荒げる娘の子育てに，母親が「子どもがいけないことをするのは仕事です。そうやって覚えていくのが日々の成長なのです。」「指示を出すより，子どもの後ろに立ってあげなさい。何をしているかよく見えるでしょう。」と言ったそうです。それから娘は，口を出すのは子どもが行動してからにしようと心に決めたそうです。先回りして言った方が楽だけど，それは自分の気が済むだけで，いいことは何もないと気付いたといいます。

子どもは，子どもなりの考えをもって行動し，時には失敗し，経験を積んでいきます。経験こそが学びであって，先回りして困難の芽を封じ込めても，子どもの成長に必要な力を育てることにならないのです。

幼稚園の誕生の祖といえるドイツのフリードリヒ・フレーベルは，保育者に「親以上の存在」となるよう心構えを求めました[4]。フレーベルが考えた幼稚園は，母親の社会進出を支援するとともに，家庭教育を補完するものとしていました。

子どもを育てるという立場では，親も保育者も同じです。それぞれの役割を自覚しつつ，子どもの視点で，その指導やしつけがよいかどうかを問い，改善することが大切です。インターネットなどによる情報は増大していますが，親として学ぶ直接的な機会は減ってきているように思います。一方で兄弟が多い時代と違い，公共の機関や，幼稚園や保育所などの子育て支援の役割は増大しています。保育者は，子どもと接する保護者にも大きな影響を与える指導者としての自覚と研修が必要なのです。

保育者の絶対条件は，「深い愛情」です。幼稚園や保育所の創設の根本は，ここにあります。

[3] 朝日新聞「一期一会」（朝刊，2018，621）
[4] 佐伯胖「幼児教育へのいざない」東京大学出版，2001
＊）鷲田清一「普通をだれも教えてくれない」潮出版社　1998

参考図書

子どもの絵に関する本

＊林健造「幼児の絵と心　子どもからあなたへのメッセージ」教育出版　1976
＊鬼丸吉弘「児童画のロゴス　身体性と視覚」勁草書房　1981
＊鬼丸吉弘「創造的人間形成のために　子どもの絵を考える」勁草書房　1996
＊東山明，東山直美「子どもの絵は何を語るか　発達科学の視点から」NHKブックス　1999
＊ふじえみつる「子どもの絵の謎を解く　127の事例でわかる！　絵に込められたメッセージ」明治図書　2013
＊ローエンフェルド著，勝見勝訳「子どもの絵」白揚社　1956
＊津守真「子どもの世界をどうみるか　行為とその意味」NHKブックス526　1987

教育に関する本

＊デビット・A・スーザ　トム・ピレッキ著，胸組虎胤訳
「AI時代を生きる子どものためのSTEAM教育」幻冬舎　2017
＊露木和男「「やさしさ」の教育　センス・オブ・ワンダーを子どもたちに」東洋館出版　2019
＊佐藤学，今井康雄「子どもたちの想像力を育む　アート教育の思想と実践」東京大学出版会　2003
＊ヴィゴツキー著，広瀬信雄訳「子どもの想像力と創造」新読書社　2002
＊浅田匡，生田孝至，藤岡完治編著「成長する教師　教師学への誘い」金子書房　1998
＊佐伯胖，刑部育子，刈宿俊文著「ビデオによるリフレクション入門　実践の多義創発性を開く」東京大学出版会　2018
＊レイチェル・カーソン著　上遠恵子訳「センス・オブ・ワンダー」新潮社　1996

幼児教育に関する本

＊ロバート・フルガム著，池央耿訳「人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ」河出書房新社　1990
＊佐伯胖「幼児教育へのいざない　円熟した保育者になるために」UP選書280，東京大学出版会　2001
＊佐伯胖「共感　育ち合う保育のなかで」ミネルヴァ書房　2007
＊C.エドワーズ他著，佐藤学他訳「子どもたちの100の言葉　レッジョ・エミリアの幼児教育」世織書房　2001
＊佐々木正美「子どもの心の育てかた」河出書房新社　2016
＊磯部錦司，福田泰雄「保育のなかのアート」小学館　2015
＊樋口一成「幼児造形の基礎　乳幼児期の造形表現と造形教材」萌文書林　2018

図画工作に関する本

＊文部省「小学校図画工作指導資料　新しい学力観に立つ図画工作の学習指導の創造」日本文教出版　1993
＊文部省「小学校図画工作指導資料　材料・用具の扱い方とその指導」ぎょうせい　1986
＊V・ローウェンフェルド著，竹内清，堀内敏，武井勝雄訳「美術による人間形成　創造的発達と精神的成長」
黎明書房　1963
＊エリオットW・アイスナー著，仲瀬律久他訳「美術教育と子どもの知的発達」黎明書房　1986
＊宮坂元裕「「造形教育」という考え方」日本文教出版　2006
＊宮坂元裕「「図画工作」という考え方」黎明書房　2016
＊岩﨑由紀夫，阿部宏行「私がつくる図画工作科の授業　ふぞろいな学習指導案」日本文教出版　2011
＊板良敷敏，阿部宏行「図画工作の指導と評価」東洋館出版社　2005
＊岡田京子「成長する授業　子供と教師が手をつなぐ図画工作」東洋館出版社　2016

造形指導に関する本

＊辻政博「ヒントがいっぱい！　図工のきほん大図鑑　材料・道具から表現技法まで」PHP研究所　2013
＊岡田憨吾「絵画表現と材料・用具の世界」サクラクレパス出版部　2009
＊森川昭夫「東京教育シリーズ　小学校図画工作　手づくりおもちゃであそぼ」東京書籍　1997
＊よしだきみまろ「かみコップでつくろう」かがくのとも通巻185号，福音館書店　1984
＊佐藤諒「リサイクルクラフト　造形あそびアイデア事典」東京書籍　1986
＊内野務「造形素材にくわしい本　子どもが見つける創造回路」日本文教出版　2016
＊金子光史「アートびっくり箱　障がいのある子どもの絵画指導」学研教育出版　2008
＊鮫島良一，馬場千晶「保育園・幼稚園の造形あそび　子どもの表現を育てる」成美堂出版　2014
＊くまがいゆか「U-CANの製作・造形なんでも大百科」自由国民社　2012
＊内野務，中村隆介「アートフル図工の授業　子どもをひらく題材ノート」日本文教出版　2012
＊竹井史「幼児期の終わりまでに身につけたい 造形道具の知識と技能が楽しくしぜんに育つ本」メイト社　2019

むすびに

「火だと思っていた星が，石だと知りました。落ちてこないかと怖くなりました」

これは私が小学校１年生を担任していたころ，子どもが絵日記に書いてきた一文です。文章と一緒に添えられていた絵には，上を見る子どもとともに，黒く塗りつぶされた石の星がいくつもありました。この子どもは新たな情報（知識）を知って，これまでとは違う新たな概念が築かれたのでしょう。今までの「知識」では説明がつかず，新たな概念を築くことで事象を理解した瞬間ともいえます。一方，この知識によって新たな疑問も生まれました。それが「落ちてきたらどうしよう」と星を見るのが「怖くなった」という一文にあります。石だとしたら，落ちてきた時のことを想像して心配になったというのです。この新たな疑問は，「どうして落ちないのか？」という問いを生み出します。子どもの前に新たな世界が開かれたのです。

「コツ」を習得する技能面においても，「ちょうちょが羽を〇〇するように」「体をコマのように」など言葉によって浮かんだイメージを鍵にして実現を助けたりします。その上で身に付いた技能は，次の段階の課題の土台（身体知）として生きて働くのです。

私たちは乳幼児期より感性を伴って想像力を働かせてイメージを形成し生きています。イメージは世界を知る上で欠かすことのできないものです。私たち大人は，世界を知るために対象を外側から分析的に捉えようとします。でも，子どもたちは世界の内側から「遊び」を通して捉えようとしています。造形表現（美術）は世界を知るための方法です。

創造的な人間形成は「美を知ること」を，一つの鍵としています。

著者紹介

阿部　宏行

札幌大学女子短期大学部こども学科教授。
1954年生まれ。北海道教育大学岩見沢校教授を経て，現職。
文部科学省 中央教育審議会 教科別等ワーキンググループ等委員（芸術ワーキング）芸術ワーキング委員／同 専門委員 初等教育分科会 幼児教育部会 専門委員（平成29年）／国立教育政策研究所 学習指導要領実施状況調査（小学校 図画工作）結果分析委員会 主査（平成26年）／小学校学習指導要領実施調査作問委員会 図画工作 文部科学省 主査（平成24年）／「評価規準，評価方法等の工夫改善に関する調査研究」協力者 文部科学省 協力者（平成21年）／学習指導要領の改善協力者 小学校図画工作 文部科学省 協力者 学習指導要領改善協力者（平成18年）などを歴任。
主著：『全学年・全内容を網羅した 図画工作の指導と評価ーわくわく どきどき 楽しい授業！ー』（共著，東洋館出版，2005）／『私がつくる図画工作科の授業 ふぞろいな学習指導案』（共著，日本文教出版，2011）

ＡＢＣシリーズ

子どもの思いに身を重ね，
先生に寄り添うＡＢＣシリーズ。

・『いっしょに考えよう 図工のＡＢＣ』（平成24年４月）
・『成長する先生のための 指導のＡＢＣ』（平成25年４月）
・『子どもと先生を育てる 授業のＡＢＣ』（平成26年５月）
・『図工・美術がもっと好きになる 造形のＡＢＣ』（平成27年４月）
・『子どもが育つ わたしが育つ 子どものＡＢＣ』（平成28年５月）
・『なるほど！ そうか！ 新学習指導要領 新・図工のＡＢＣ』（平成29年７月）
・『学びとしての図画工作　題材のＡＢＣ』（平成30年12月）
・『図工を通して　子どもがもっと好きになる 評価のＡＢＣ』（令和２年７月）

これからも、造形教育とともに。

アート de ゲーム

**アートカードを使った
ゲーム・事例を多数掲載。
付属のカードで,
すぐに遊べる！**

編著 **ふじえみつる**
予価 **3,240円**（本体3,000円+税8%）
A4判　64頁　アートカード付
ISBN978-4-536-60085-9

発売中

造形素材にくわしい本 子どもが見つける創造回路

**素材が材料になるとき、
子どもは夢中で動き出す**

素材個々の材質や特質・子どもと素材との関わり、その変容のやりとりにくわしい本。
素材の魅力と子どもの豊かさが、互いにひらき合う造形活動のために、教師が何をすべきか考えるヒントが詰まった1冊。

編著 **内野務**
定価 **2,700円**（本体2,500円+税8%）
レター判　112頁
ISBN978-4-536-60090-3

発売中

書籍は、最寄りの書店でお求めください。

日本文教出版webサイトでは、各教科情報や、教育読み物、各種ダウンロード資料などを随時公開中！

日文 検索